

森 遺 跡 I

1989. 3

交野市教育委員会

例　　言

1. 本書は、交野市教育委員会が財団法人交野市体育文化協会に委託して実施した森遺跡の調査報告書である。

2. 森遺跡の発掘調査には、森遺跡発掘調査委員会を組織し、同体育文化協会の奥野和夫と山口博志が、下記委員の教示を得て調査を担当した。

森遺跡発掘調査委員会

委員長 原田誠一（交野市長）　副委員長 水野正好（奈良大学教授）

委員 伊藤史朗（交野市教育長）　委員 堀江門也（大阪府教育委員会）

委員 玉井 功（大阪府教育委員会）　委員 景守紀子（府立交野高校教諭）

委員 奥野平次（交野市文化財保護委員）

委員 尾亀健次（交野市企画財政部）

3. 本書の執筆並びに遺物の整理・実測については真鍋成史、小川暢子、大場一、大中寿之、大中俊文、北村尚博、嶋澤泰彦、諸氏の協力を得た。又遺物の観察については、芋本隆裕氏（東大阪市文化財課）、北田良一氏（元交野市史編纂委員）の教示を得た。

4. 調査の実施に際しては、前述の諸氏を始め、齊部麻矢、田辺太、岸野幸廣、三原敬二郎、森井直也、黒田和夫、船吉仙句、竹内毅、上原美和、永井敏勝、守屋周一、諸氏の参加を得た。

5. 第4章の出土遺物観察表については、四ツ池遺跡（堺市文化財調査報告第16集・堺市教育委員会）を参考とした。

は　し　が　き

タイのパンチエン大寺院廃墟の発掘調査では、新しく高熱処理された土器や、青銅器多数と共にその鋳型が発見されて、約五千年前も昔に進歩した文化が実在したことが確認され、併せて稻作文化が成就していたことも立証しました。

歴史年表では、オリエント青銅文化の起源は約四千年の昔であり、インドの青銅器文化は約三千年前とされていて、その頃黄河流域では、中国文明がおこるとあります。

人類文化発祥の歴史が、大きく遡ることが実証されたことは、埋蔵文化財調査研究事業の成果であります。

丁度その頃の日本列島は縄文時代の後期の頃で、数戸単位の竪穴住居に定住して縄目紋を付けた素焼きの土器を使って生活を営んでいたことが確認されています。気温は縄文海進期の後半で、亜熱帯に近く大変熱い。人びとは、裸で鳥獣を狩り魚貝を採って生活するという、大変自由でのんびりと豊かなものであったでしょう。

その頃より更に一万年以上も古い旧石器時代の貴重な遺跡が、交野の先輩諸兄の手で発掘されて確認されています。神宮寺の上遺跡です。

その頃は丁度ウルム氷河時代後半の極寒期で、厳しい気候に耐えるために、鹿や猪の毛皮を着込んで洞窟などに住み、石斧や石弓でマンモス象を追う勇壮な生活をしていましたことでしょう。

この人たちが交野の先祖であり、日本民族のルーツをなす人々なのです。

さて有史以降の歴史的遺産は、交野の地の至るところに眠っています。少数精銳の職員たちが、市民有志の御支援をいただいて、弛むことなく地味な調査作業を続けて呉れています。

年ごとに不断の努力を積み重ね、集積された記録を整理編纂すれば、確証された立派な交野の歴史書が生まれる事と期待しています。

このたび刊行する本書も、その調査の事実を記録に止めようとするものです。御参考に供します。

最後になりましたが、今回の森遺跡の調査に際しましては、奈良大学の水野正好教授を始めとする森遺跡発掘調査委員会の皆様方に格別の御指導と御支援を頂戴しております。心から厚くお礼を申し上げます。

交野市長 原 田 誠 一

目 次

はしがき

例 言

第1章 調査に至る経過.....	1
第2章 位置と周辺の遺跡.....	3
第3章 調査の概要.....	5
第1節 A調査区.....	5
(1)位置.....	5
(2)層序.....	5
(3)遺構.....	6
第2節 B調査区.....	13
(1)位置.....	13
(2)層序.....	13
(3)遺構.....	13
第4章 (1)出土遺物観察表.....	19
(2)森遺跡出土の自然遺物.....	45
(3)森遺跡出土の轆羽口・鉄滓の考察.....	46
第5章 まとめ.....	53

挿 図 目 次

- 図1 調査位置図
- 図2 遺跡分布図
- 図3 A地区断面実測図
- 図4 A地区上層遺構平面実測図
- 図5 A地区下層遺構平面実測図
- 図6 B地区断面実測図
- 図7 B地区遺構平面実測図
- 図8 A地区溝1出土遺物実測図
- 図9 A地区溝2(土塙5)出土遺物実測図
- 図10 A地区溝3出土遺物実測図①
- 図11 A地区溝3出土遺物実測図②
- 図12 A地区溝3出土遺物実測図③
- 図13 A地区溝3出土遺物実測図④
- 図14 A地区溝5出土遺物実測図①
- 図15 A地区溝5出土遺物実測図②
- 図16 A地区溝5b出土遺物実測図
- 図17 A地区溝6出土遺物実測図
- 図18 A地区土塙1出土遺物実測図
- 図19 A地区86年度試掘時、出土遺物実測図
- 図20 B地区井戸1出土遺物実測図
- 図21 B地区溝1出土遺物実測図
- 図22 B地区溝2出土遺物実測図
- 図23 大阪府下古墳時代における鍛冶遺跡分布図

表 目 次

- 表1 森遺跡出土の桃核の大きさ
- 表2 森遺跡鍛冶関連遺物出土表
- 表3 大阪府下古墳時代における鍛冶遺跡一覧表

第1章 調査に至る経過

昭和57年3月に事業認可を得て、交野市が建設を予定している都市計画道路・磐船駅前線は、JR片町線（学研都市線）の河内磐船駅前の道路整備を目的としたものであるが、今回の道路予定地の全域が、周知の埋蔵文化財の包蔵地である森遺跡内に含まれていることから道路工事に先だって、事前の発掘調査が必要となった。

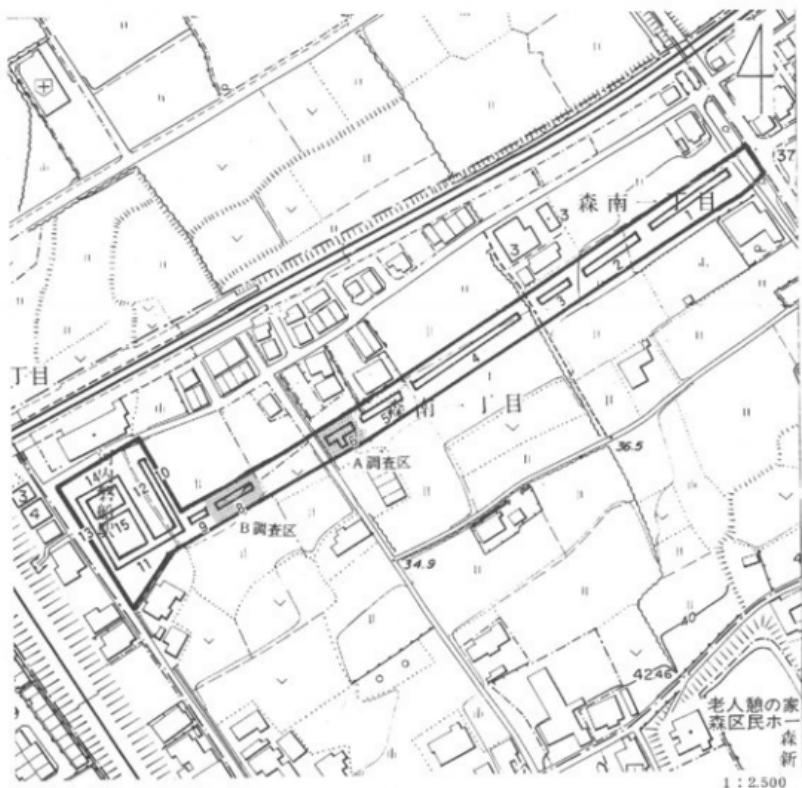
このために、交野市教育委員会では、交野市土地開発公社による道路予定地の買収がほぼ終了した昭和61年7月19日から財団法人交野市体育文化協会に委託して発掘調査を実施した。

これまでの調査の経過については、まず第1次調査として昭和61年7月17日から同年9月6日まで機械と人力掘削による試掘調査を実施した。調査の方法としては、道路予定地東端の森南1丁目220番地から順次西方のJR河内磐船駅前までを、地形に応じて幅1mのトレンチを15箇所設定し、調査を実施した。調査の結果、第3トレンチを除く全てのトレンチに主に古墳時代を中心とする遺物包含層の存在を確認した。この遺物の包含層は、道路予定地東端（標高36.8m）で最も深い位置（地表下約1m）に存在し、西端の駅前部分（標高31.3m）で最も浅く（地表下約0.4m）なっていた。なお同試掘において、第1・3・11の各トレンチを部分的に地表下3mまで掘り下げた結果、第1・3トレンチについては地表下約2.1mに厚さ0.4m程度の灰黒色泥炭層がまた第11トレンチでは、地表下1.6mの位置に前者とは明らかに色調に差のある暗青灰色の粘土層（泥炭）が確認された。第1・3トレンチの泥炭層について、府立交野高校教諭の景守紀子氏（地学）に鑑定していただいたところ、ウルム冰期にまで溯るものであろうとの教示を得た。このような結果から、同道路予定地は、全面的な発掘調査が必要であることが確認された。

第2次調査は、前回の試掘調査の結果をふまえて、昭和63年2月8日から同年6月16日までの間に、森南1丁目294番地の5と同388番地の3の2筆の土地を、それぞれA及びB調査区として、全面的な発掘調査を実施した。調査の結果、市内においては検出例のない遺物、遺構をはじめ多種多量の土器等を出土し、多大の成果を得た。

今後も、引き続き調査を実施していく予定であるが今回の報告書は、主として第2次調査の調査結果を記し、第1次調査については、大部分のトレンチが包含層の確認だけにて終了しているため、調査部分の位置と概略のみとし、試掘調査にて出土した

遺物等については同調査地（A・B調査区以外）の今後の調査結果と共に報告書に記す予定である。



第2章 位置と周辺の遺跡

森遺跡は、交野市森南に所在する。市内を流れる最大の河川である天野川は、奈良県生駒市に源を発してほぼ北流し、大阪府と奈良県との境界をなす生駒山系の磐船渓谷を突き抜けたところで、沖積平野を形成する。森遺跡は、この平野を望む生駒山系の西側山麓部分の標高30mから50mの所に立地し、遺跡の範囲は、山地部分を除く、現在の森南地区のはば全域を含むと推定される。

森遺跡における最初の調査は、昭和30年に当時の交野町が、現在の市道森南・神宮寺線を建設するに際して、森南3丁目の大門清造氏（酒造）の所有地の北側斜面より多数の遺物が出土したことにより、故片山長三氏を中心とする当時の交野考古学会にて実施された。この調査の結果により森遺跡は、弥生時代後期から現代に至る遺跡であることが確認された。

森遺跡の周辺の遺跡としては、森遺跡から山麓部に沿って北へ約2km離れた所に縄文早期の遺跡である神宮寺遺跡が存在する。続く弥生時代の遺跡としては、同じく神宮寺遺跡をはじめ、同遺跡と森遺跡の中間に寺村遺跡が、また天野川を隔てた西岸には坊領遺跡が存在する。この他、東側山地部の標高250mの所には、高地性集落とされている寺弥生遺跡が存在する。古墳時代の遺跡としては、前述の高地性集落のある尾根筋伝いに少し下ったところに奢墓と同じく撥形をなす古式形式の古墳である雷塚を含む森古墳群（前期）が、つづいて、これより繼起するであろう中期古墳として車塚古墳群（大阪府立交野高校敷地内及びその付近）が存在する。また車塚古墳群から東側へ0.8km程離れた山麓部には、横穴式石室を有する寺古墳群が存在する。

歴史時代においては、京阪電鉄・交野線の河内森駅から私市方向へ0.2km程いったところを一条として、枚方市駅付近を10条とする条理制が存在したとされ、5条通りにあたる交野市郡津は、以前は郡門村と書いて「こうづ」と呼んでいたことなどから、当時郡衙が存在していたと推定されている。

以上のように、森遺跡及びその周辺は、特に弥生時代と古墳時代の遺跡が数多く存在する。

参考文献

交野市史復刻編（交野市教育委員会）

北河内史蹟史話（平尾兵吾）



1 郡津原里遺跡	3 郡津大山古墳	4 郡津城跡	5 郡常滑城跡
6 交野郡南跡	7 長宝寺跡	8 松前城跡	9 私市城跡
10 北田某住宅(董文)	11 でしら遺跡	12 我美城跡	13 倉治小学校西邊跡
14 倉治遺跡	18 神宮寺遺跡	19 開光寺跡	20 尾上古墳跡
22 徳永某住跡	23 大谷北原跡	24 大谷井遺跡	25 やぶ市古墳跡
26 京の山古墳	27 山森某住宅(董文)	28 今神村遺跡	29 藤古墳跡
30 柴原古墳群	31 中古墳群	34 鶴山遺跡	35 松市古墳跡
36 世船小学校東邊跡	37 森遺跡	38 天神社遺跡	39 松市河内古墳跡
40 馬場遺跡	52 門ノ木遺跡	53 功被跡	

図2 遺跡分布図

第3章 調査の概要

第1節 A調査区

(1)位 置

A調査区は、交野市森南1丁目294番地の5に所在する。標高は33.5mで、付近の地形は、南から北へ、東から西へとゆるやかに傾斜している。調査地の東側には、条里制遺構のなごりとされている地蔵筋と呼ぶ小道が南北に走っている。A調査区は、この土地の道路予定部分の東西14m、南北12mの部分（168m²）を調査区域とし、発掘調査を実施したものである。

(2)層 序

A調査区における基本的な層序は、地表下約0.4mまでの旧耕作土層と遺物包含層である灰黒色系土層とそのベースである花崗岩質の砂質土層から形成されている。

ほぼ東西南北の四面の断面の内、東側及び南側の断面については、後世による耕作のための溝によって包含層の大部分が削り取られて消失しており、南側断面の一部分にその痕跡と推定される層が認められるだけで、青灰色系及び鉄分を含んだ砂質土層が堆積する。

西側及び北側断面については、両面とも基本的には先に記述したとおりの土層の堆積を示し、旧耕作土層については(図3、第1・2・3層)地表下約0.4mまで整然と堆積する。その下層の包含層（第4・5層）については、両層とも、溝の部分を除いて現在の地形に応じて北及び西方向に向かうにつれて包含層が厚く堆積している。このことから本来の包含層はほぼ地形にそって堆積していたが、その後の耕作化によってほぼ水平に削り取られたために、このような堆積層の形となったことが推定される。包含層の最深部は（図3 北側断面図基点から2.5m付近の溝底部）1.1mを測る。

包含層より下層には、青灰色及び黄灰色系の花崗岩質砂質土層（第8・15・16層）の堆積が確認された。

(3) 遺構

上層遺構面（図4）

第4層上面の遺構面である。旧耕作による跡とみられる溝が南北に走る。西端部より東の方向に人の足跡と推定される無数の小ピットを検出した。出土遺物としては耕作面最下層部より須恵器・土師器等に混じって青磁碗の破片を出土した。耕作の時期については、出土遺物が少ないと認めることは不明であるが室町時代までには耕作地となっていたと見られる。

下層遺構面（図5）

検出した遺構は、溝状遺構7条、土塹5基である。

溝1 地形に沿った形で、南から北へ流れる。最大幅1.15mで最深部は0.36mを測る。出土遺物として、土師器（高杯・甕）の他、フイゴの羽口と鉄滓を出土する。時期は、5世紀後半から6世紀初頭と見られる。

溝2 溝1とほぼ平行した形で流れる。最大幅は1.05mで最深部は0.11mを測る。出土遺物は、須恵器・土師器で1と同時期のものと見られる。

溝3・4 両方の溝とも、1と同方向に流れ、途中で合流する。明瞭な切り合い関係及び出土遺物からの時期的差が認められないことから同一の溝と推定される。最大幅は1.05mで最深部は0.36m（溝3の測定値）を測る。出土遺物としては、土師器・須恵器・鉄滓を出土する。時期としては、溝1よりは古い時期のものと見られる。

溝5 北方向に流れるが、途中に土塹とも推定される幅1.5m深さ0.50mの落ち込みを伴なう。この溝は、上層部が灰黒色土層であるのに対し下層部は粒の粗い砂層を多量に含み、上下層の遺物に時期差が見られることから急激に埋没したと見られる。今回検出した溝の内では最も新しい時期のものと見られる。

溝6 建物の周囲をめぐっていた溝のように推察されるが、調査面積が狭いこともあって確認はできなかった。出土遺物は、庄内式の甕・器台・低脚高杯他を出土し、A調査区では最古の時期の溝である。

溝7 7条の溝の内、人為的に掘られたことが確認できる溝である。溝3・5との関係及び時期については不明である。

土塹1 長さ1.46m幅1.10mで深さ約0.4mを測る。出土遺物から溝6よりやや時

期が下るものと見られる。

土塁2 長さ1.5m、幅1.1mで最深部は0.4mを測る。時期は不明である。

土塁3 北側に続いていることを確認したが、調査面積が狭いため時期等は不明である。

土塁4 長径3.4m、幅1.2m、深さ0.35m。時期は不明である。

土塁5 ほぼ円形で、径約1.4mで深さ0.5mを測る。溝2の途中に含まれた形で存在するが、出土遺物の須恵器から考察すると、溝2よりも後の時期のものである。尚、土塁内からは、多量の炭化した木片を出土した。



図3 A地区断面実測図

図4 A地区上層遺構平面実測図

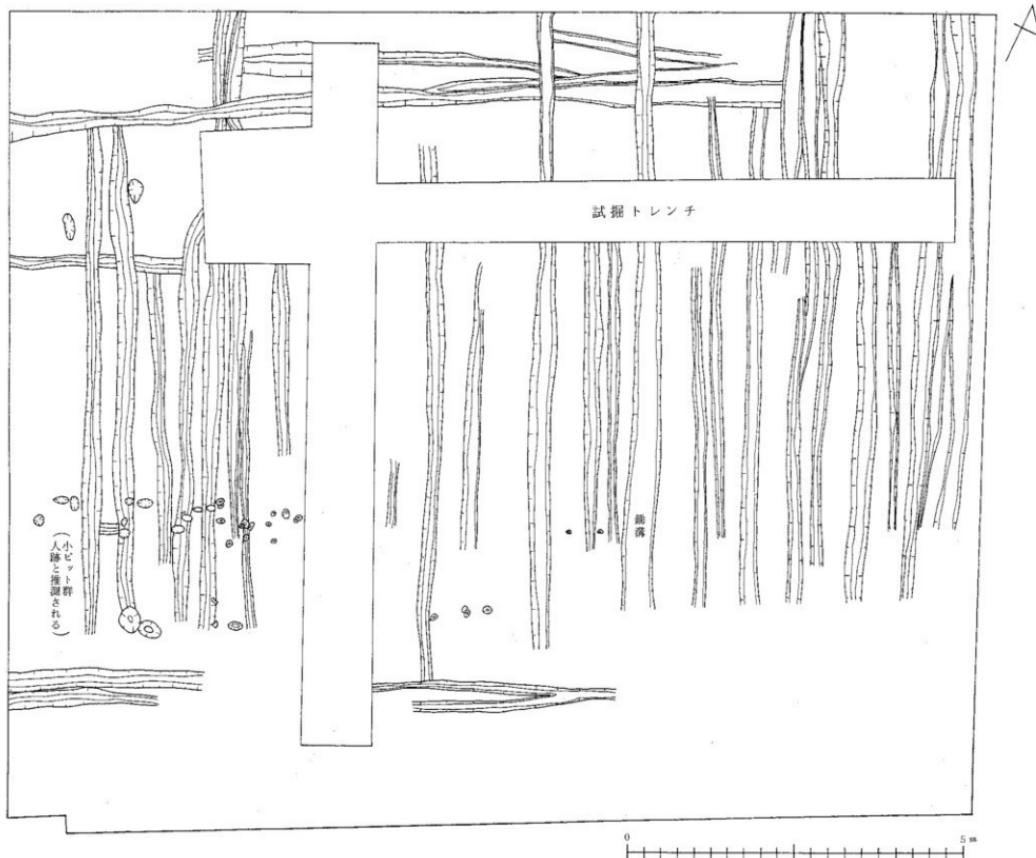
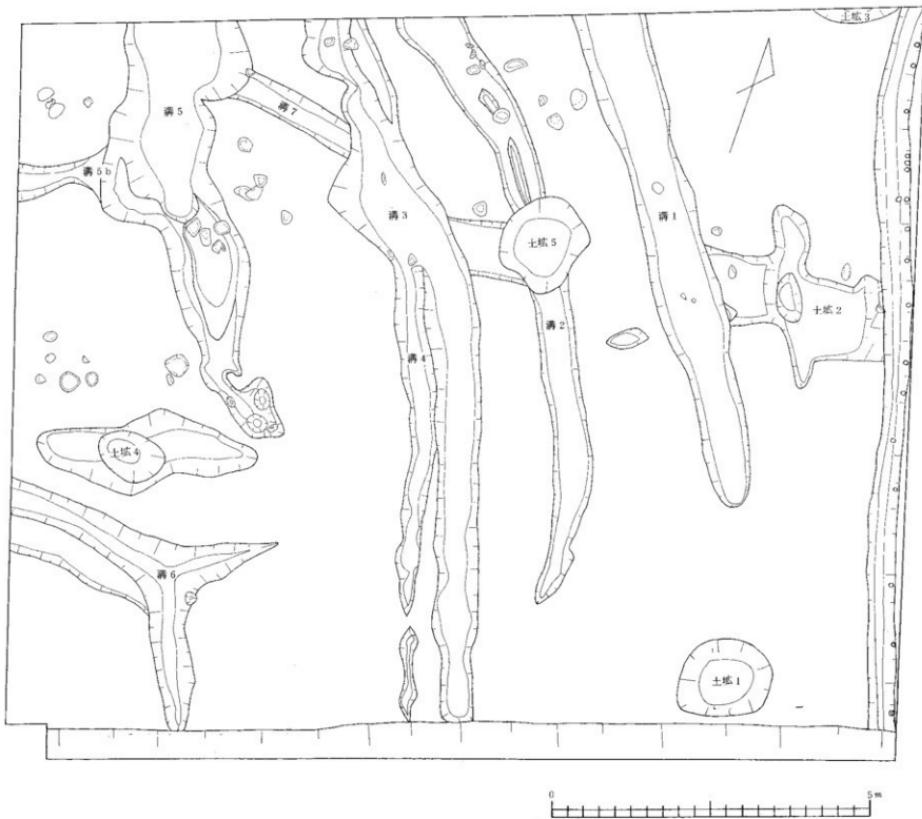


图 5 A 地区下层遗構平面实测图



第2節 B調査区

(1)位 置

B調査区は、A調査区から西側の水田1枚を挟んだ交野市森南1丁目388番地の3に所在する。標高は32mである。B調査区は、南北に続く比較的長い水田の南端に位置し、他の調査区と比較して隣地との標高差が最も大きい区域である。調査は、地形に応じた形で東辺が6m、西辺11m、そして南北辺が18mの台形状の調査区を設定し、発掘調査を実施した。

(2)層 序

B調査区における基本的な層序は、第1層から第5層までの旧耕作土層と、A調査区と同じ灰黒色系の遺物包含層及び古墳時代の遺構面である黄灰色土層とその下層の花崗岩質の砂質土層から形成されている。

調査区西端から3.9mの所で、調査区西側部分と東側部分に0.5mの段差を生じる。これは、古墳時代以降に、黄灰色土層を削平して耕作面（地表下0.9m）とした後ににおいて、再び第4層上層を削平し、現在のような形の水田になったと考える。東側部分に同時期の耕作面が存在していたかは不明である。

A調査区と同じく、B調査区も西と北に向かって傾斜している。このために、古墳時代の遺構面で黄灰色土層も調査区東側部分で削平によって消滅している。

(3)遺 構

井戸1は、直径3.2m、深さ0.7mを測る素堀りの井戸で、中層からは、須恵器の杯・蓋・甕及び壺の口縁部や土師器の椀・高杯・甕の底部やフィゴ羽口・鉄滓を出土する。下層からは、須恵器の杯・蓋の完形品が計6個体出土し、その他に土師器の高杯脚部・壺の底部・牛角付把手・鉄滓などの他、桃の種子が計21個体出土し、ウリ科と見られる種子も出土している。下層出土の遺物は完形品の多いこと、また桃の種子が多量に出土していることから、井戸祭祀とこれらの遺物との関連が推測される。この井戸の

時期は、6世紀前後と見られる。

溝1は、地形に沿った形で、東から西へ流れる。最大幅0.3mで、最深部0.60mを測る。この溝は上部が第4層の耕地化の際に削られたので、正確な溝の幅、深さは不明である。出土遺物としては、須恵器の蓋・土師器の甕底部が出土している。時期は6世紀前後と思われる。

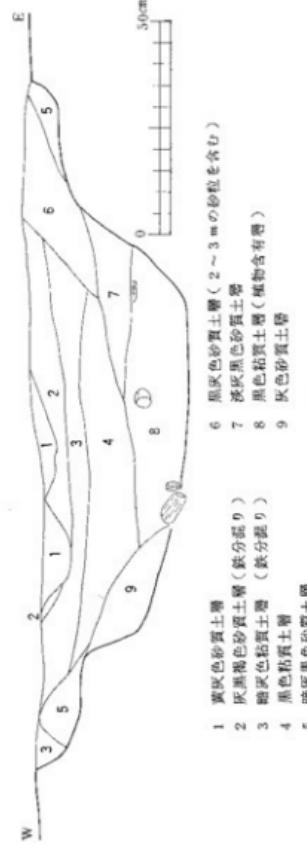
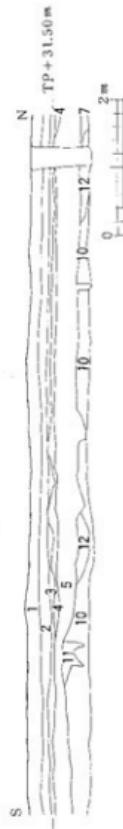
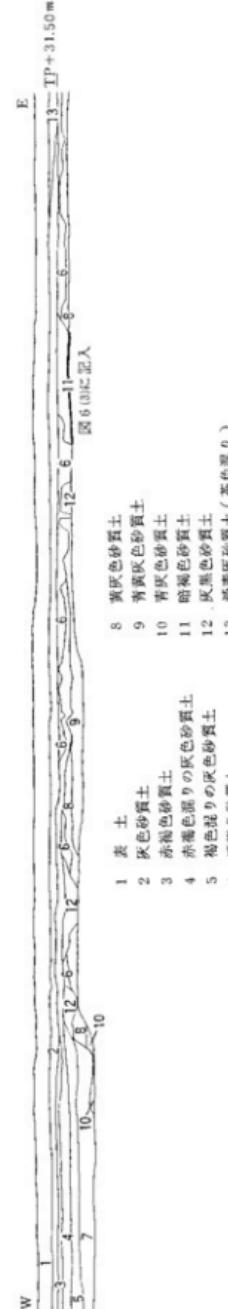
溝2は、最大幅が0.9m、最深部は0.3mを測る。出土遺物は須恵器の甕・高杯、土師器の甕・高杯脚部が出土しており、時期は5世紀中頃と思われる。

溝3は、溝2より分岐する溝で、最大幅が0.8m、最深部は0.5mを測る。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

溝4・5は、両方の溝とも、溝2と同方向に流れる。溝4の最大幅が0.2mで、最深部は0.3mを測る。溝5の最大幅は0.9mで、最深部は0.4mを測る。出土遺物は破片のみで、時期の詳細は不明である。

土塹1～4は、出土遺物はなく、時期は不明であるが、簡単にそれぞれの土塹の規模の概略を述べる。土塹1は長径1.2m、幅0.5m、深さ0.15mを測る。土塹2は長径0.4m、幅0.4m、深さ0.05mを測る。土塹3は長径2.2m、幅1.5mを測る。土塹4は長径1.4m、幅1.0m、深さ0.1mを測る。

ピットは、調査区中央の北側に集中する。建物に伴うものか、棚に伴うものかは確認できなかった。



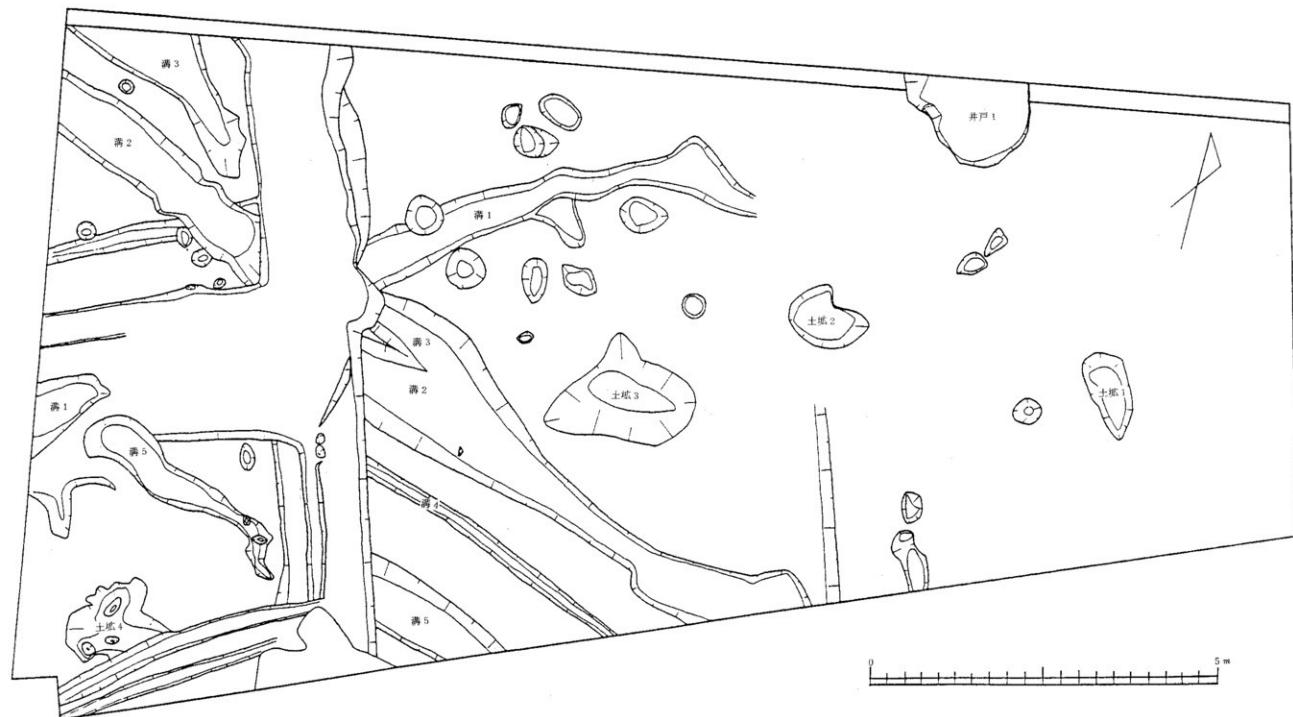


図7 B地区遺構平面実測図

第4章 (1)出土遺物觀察表

A 調査区

番号	器種 図版番号	法量 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
No.1	杯蓋 (身) (口縁部) (底部)	復元口径 10 残存高 3.8	たちあがりは内傾し端部は丸い受部 やや下方にのびる。	マキアゲ、ミズビキ成形 内・外面部とも回転ナデ調整	・胎土 密 ・色調 内、灰(N6/1) 外、灰(N6/1) ・焼成 良好	・善1 ・須恵器 ・反転復元
No.2	瓶 (体 部) (底 部)	体部径 12.4 残存高 6.5	口縁部は欠損のため不明である。 体部はやや肩が張っている。 底部は丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形 内外面とも、ケズリ後ナデ体部に棒状のものによる打ち出し。	・胎土 粗 ・色調 内、灰白(N8/1) 外、灰白(N7/1) ・焼成 良好	・善1 ・須恵器 ・反転復元
No.3	高杯	口径 13.1 器高 11.6 基部径 2.5 脚径 8.7	杯部は体部から口縁部にかけて内側 しながら上方にのび、端部は丸く 底部は平らである。 基部はやや細く脚部は下外方向に下 り基部は外下方にひらく。	マキアゲ・分割成形 外面部 基部 ヨコナデ 底面 ユビオサエ 杯部 不明 内面 杯縁 ヨコナデ 底面 脚部 しづり目 棒さし痕有り	・胎土 0.5mm~2mmの砂粒を少々含む ・色調 内、緑(2.5YR6/6) 外、緑(2.5YR7/6) ・焼成 良好	・善1 ・土師器
No.4	高杯	口径 14.1 器高 11.6 基部径 2.4 脚径 9.0	杯部は体部から口縁部にかけて内側 しながら上方にのび端部は丸く、 底部は平らである。 基部はやや細く脚部は下外方向に下 り基部2/3下位より外下方にひらく、 端部は内傾する平面を有す。	マキアゲ・分割成形 外面部 基部 上部1/3上位ヨコナデ 他多方向ナデ 脚柱部 補足 タテナデ 内面 ヨコナデ 杯縁 ヨコナデ 底面 多方向ナデ 基部(底)痕 棒さし痕有り	・胎土 1mm程度の砂粒を少々含む ・色調 内、緑(2.5YR7/6) 外、緑(2.5YR6/6) ・焼成 良好	・善1 ・土師器
No.5	高杯	口径 13.5 器高 10.3 基部径 2.0 脚径 8.9	杯部は体部から口縁部にかけて内側 しながら上方にのび端部は丸く底 部は平らである。 基部は細く脚部は下外方向に下り基 部2/3下位より外下方にひらく。 端部は内傾する平面を有す。	マキアゲ・分割成形 外面部 杯縁 底部ユビオサエ 内面 杯底部 ユビナデ 底面 ユビオサエ 棒さし痕有り	・胎土 1mm程度の砂粒を少々含む ・色調 内、淡赤緑(2.5YR7/4) 外、淡赤緑(2.5YR7/4) ・焼成 良好	・善1 ・土師器 ・杯部反転復元
No.6	高杯 (杯部)	口径 12.7 残存高 3.7	体部から口縁部にかけて内側しなが ら上方にのび縁部は外反し端部 はやや丸い。	マキアゲ・分割成形 内面・外面部とも剥落不明	・胎土 精良 ・色調 内、緑(5YR6/8) 外、緑(5YR6/8)	・善1 ・土師器 ・反転合成
No.7	高杯 (杯底部)	残存高 2.2	底部は平らである。	分割成形 ユビオサエ	・胎土 1mm程度の砂粒を含む ・色調 内、緑(2.5YR7/6) 外、淡赤緑(2.5YR7/4)	・善1 ・土師器
No.8	高杯 (脚部)	残存高 4.6	下外方にのびる。	外面 ヘラナデ 内面 しづり目	・胎土 精良 ・色調 内、緑(2.5YR7/6) 外、にじいろ(5YR7/4)	・善1
No.9	高杯 (脚 部) (補 部)	残存高 6.6 脚径 10.0	下外方向にのび端野は外下方向にひ らく。 端部はやや丸い。	マキアゲ成形	・胎土 精良 ・色調 内、赤緑(10R6/6) 外、赤緑(10R6/6)	・善1 ・土師器 ・反転復元
No.10	裏 (口縁部) (底 部)	復元口径 16	口縁部は上方にのび端部はやや内 傾した平面をなし、内側に肥厚を有 す。 底部は、平たい丸底を有す。	マキアゲ成形 口縁部 内外面部ともヨコナデ 底部 内外面部ともユビナデ	・胎土 1~2mmの砂粒含む ・色調 内、にじいろ(10YR7/2) 外、暗褐色(7.5YR7/2) 底部、黒褐(2.5YR3/1) ・焼成 良好	・善1 ・土師器 ・反転復元

番号	器種 図版番号	法 館 cm	形態の特徴	技 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
No11	壺 (口縁部)	復元口径 15.9 残存高 5.4	口縁部は内側して上外方にのびた後わざかに屈曲して更に外反して上にのびる。 端部は内側する平面を有す。	マキアゲ成形 外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	・胎土 1~3mm程度の砂粒を多量に含む ・色調 内、に赤い緋(7.5YR7/4) 外、淡黄緋(7.5YR8/4)	・壺1 ・七膳器 ・反転復元
No12	フイゴ羽口	長さ 4.2 幅 5.5 厚さ 2.2	羽口先端部の鋭片。 先端部は高張のため崩落し、面接状を成し、他の部分も灰褐色に変色する。 空気穴内面は平滑である。	マキアゲ成形	・胎土 1~3mm程度の砂粒を多量に含む ・色調 内、桂(5YR7/6) 外、褐灰(7.5YR5/1)	・壺1 ・土師器
No13	壺 (体部) (破片)			・外面 平行叩き ・内面 スリケシ		・壺1 ・須恵器
No14	壺 (体部) (破片)			・外面 平行叩き ・内面 スリケシ		・壺1 ・須恵器
No15	壺 (体部) (破片)			・外面 平行叩き ・内面 スリケシ		・壺1 ・須恵器
No16	杯蓋 (身) (口縁部) (体 部)	復元口径 12.0 残存高 3.8	たちあがりは、ほぼ垂直にのび端部は内側する凹面を成す。 受部は水平にのびる。	マキアゲ・ミズビキ成形 内・外面とも回転ナデ	・胎土 精良 ・色調 内、明青灰(10BG7/1) 外、明青灰(10BG7/1) ・焼成 良好	・壺2 ・須恵器 ・反転復元
No17	杯蓋 (身)	口径 10.5 臺高 4.6 たちあが 2.1 り高 13.0 受部径	たちあがりはほぼ垂直にしてのび端部はやや内傾した平面を成す。 受部はほぼ水平にのび端部はやや殺い。 底部は平面を成す。	マキアゲ成形 内・外面とも回転ナデ 外面底部2/3回転ヘラケズリ (左回り)	・胎土 1mm~2mm程度の砂粒を含む ・色調 内、灰(N6/) 外、灰(10GY6/1) ・焼成 良好	・壺2 ・須恵器 ・反転復元
No18	高杯 (脚部)	残存高 3.2 底部径 11.9	脚部はラッパ状に開き1条の模様をめぐらす。 端部は外傾する凹をなす。 縦縫より上方に凹孔を有す。	マキアゲ成形 内・外面とも回転ナデ	・胎土 精良 ・色調 内、灰白(N8/) 外、灰白(N8/) ・焼成 良好	・壺2 ・須恵器 ・反転復元
No21	壺	復元口径 10.7 残存高 12.0 脚部径 10.9 最大径 18.4 径	口縁部は上外方にのび端部は、やや丸い。 縫合はゆるやかに屈曲し、体部は最大径1/2位に求める球形を成す。	マキアゲ成形 外面 不明 内面 ユビオサエ・接合痕	・胎土 やや粗(0.1~5mm)の白色砂粒を含む ・色調 内、赤灰(2.5YR6/1) 外、灰(N6/) ・焼成 良好	・土器5 ・須恵器
No20	壺 (口縁部)	残存高 3.0	1条の模様を有す。	マキアゲ成形 調整 内外面 ナデ調整	・胎土 密(0.1~0.5mm)の白黒砂粒を含む ・色調 内、オリーブ灰(2.5GY5/1) 外、灰(N6/) ・焼成 良好	・土器5 ・須恵器 ・反転復元
No19	壺 (口縁部) (体 部)	復元口径 20.4 残存高 11.8 復元底部 13.0 径	口縁部は上外方にのびた後口縁部で外方にひらく、端部外傾する凹面を成す。 口縁部以下に一条の凹を有す。	マキアゲ・ミズビキ成形 外面 口縁部 回転ナデ 体 部 タタキ 基部部基部に指圧痕 内面 多方向ナデ	・胎土 密(0.1~1mm)の白色微砂粒を含む ・色調 内、灰(N6/) 外、素灰(5Z5/1) 口縁部、青灰(5BS/1) ・焼成 良好	・土器5 ・須恵器

A 調査区

番号	器種 図版番号	法量 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
No.22	高杯 (杯部)	貯存器高 1.9 基部径 2.2	底部平面を成す。	剥落 不明	・胎土 1~3mm程度の砂粒を含む。 ・色調 内、浅黄緑(7.5YR8/4) 外、灰白(10YR8/2) ・焼成 良好	・構2 ・土器器
No.23	高杯 (脚部)	基部径 3.5 器高 5.9	脚部は下外方にのびる。	マキアゲ成形 剥落 小量	・胎土 硬良 ・色調 内、浅黄緑(10YR8/4) 外、浅黄緑(10YR8/4) ・焼成 良好	・構2 ・土器器
No.24	甕 (口部部) (体部)	口径 19.0 残存器高 14.0 脚径 18.6	・口部は上外方にのび、端部は丸い。 ・脚部はゆるやかに屈曲し、体部は内側しながら下外方に下る。	マキアゲ成形 外面 口部へラ削り 内面 口部部 剥落不明 体部 ユビオサエ 接合部が認められる。	・胎土 硬(0.5~2.0mm程度の白色砂粒を含む) ・色調 内、灰褐色(5YR5/2) 外、赤(10R5/8) ・焼成 良好	・構2 ・土器器 ・内外面ともススの付着 ・反転復元
No.25	甕 (体部) (破片)			外面 平行叩き 内面 手スリケシ		・構2 ・復原器
No.26	甕 (体部) (破片)			外面 平行叩き 内面 スリケシ		・構2 ・復原器
No.27	甕 (体部) (破片)			外面 平行叩き 内面 同心円叩き		・構2 ・復原器
No.28	杯蓋 (蓋)	口径 12.0 器高 4.2 脚径 10.6	・口縁部は下外方に下り端部はやや丸い。 ・天井部は丸い。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 天井部 回転へラ削りの後ナデ 他は回転ナデ ・内面 天井部 不定方向ナデ 他は回転ナデ	・胎土 密(1.0mmの白色微砂粒を含む) ・色調 内、灰白(N7/) 外、灰白(N8/) ・焼成 良好	・構3 ・反転復元 ・古い型式の 須恵器
No.29	杯蓋 (蓋) (口部部) (体部)	口径 13.0 残存器高 3.7 脚径 12.4	・口縁部は下外方に下り端部はやや丸い。 ・天井部は丸い。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 天井部 回転へラ削りの後ナデ 他は回転ナデ ・内面 天井部 不定方向ナデ 他は回転ナデ	・胎土 密(1.0mmの白色微砂粒を含む) ・色調 内、灰白(N8/) 外、灰白(N7/) ・焼成 良好	・構3 ・反転復元 ・古い型式の 須恵器
No.30	杯蓋 (蓋)	口径 12.0 器高 3.8 脚径 11.5	・口縁部は下方にはば直面下り、 端部は内横する凹面を呈する。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 天井部 2/5以上回転へラ削 り(右回り) 他は回転ナデ ・内面 回転ナデ	・胎土 密(3.0mm以下の白色微砂粒を含む) ・色調 内、灰白(N8/) 外、灰白(10Y6/1) ・焼成 良好	・構3 ・反転復元
No.31	杯蓋 (蓋) (口部部) (体部)	口径 13.0 残存器高 3.4 脚径 12.4	・口縁部は下外方に下り端部は内傾する凹面をなす。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 天井部 ヘラ削り(右回転) 他は回転ナデ ・内面 回転ナデ	・胎土 密(1.0mm以下の白色微砂粒を含む) ・色調 内、青灰(10BG6/1) 外、明青灰(10BG7/1) ・焼成 良好	・構3 ・反転復元 ・須恵器

番号	器種 固版番号	法量 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
No32	杯蓋 (蓋) (口脛部) (体部)	口径 13.0 底存高 3.4 脣径 12.5	・口縁部は下外方に下り端部は内傾する凹面をなす。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 天井部 回転ヘラ削り(左回り) ・他是回転ナダ ・内面 回転ナダ	・胎土 密(0.5mm以下の白色粗砂粒を含む) ・色調 内、灰(N6/) 外、灰白(N7/) ・焼成 良好	・構3 ・反転復元 ・須恵器
No33	杯蓋 (蓋) (口脣部) (体部)	口径 12.4 底存高 3.7 脣径 12.2	・口縁部は下外方に下り端部は内傾する凹面をなす。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 天井部 回転ヘラ削り(左回り) ・他是回転ナダ ・内面 回転ナダ	・胎土 やや密(2.0mm以下の白色粗砂粒を含む) ・色調 内、灰(N6/) 外、灰(N6/) ・焼成 良好	・構3 ・反転復元 ・須恵器
No34	杯蓋 (蓋) (口脣部) (体部)	口径 12.2 底存高 4.1 脣径 12.2	・口縁部は下外方に下り端部は内傾する凹面をなす。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 天井部 回転ヘラ削り(右回り) ・他是回転ナダ ・内面 回転ナダ	・胎土 密(2.0mm以下の白色粗砂粒を含む) ・色調 内、灰白(7.5Y7/1) 外、灰白(7.5Y7/1) ・焼成 やや良好	・構3 ・反転復元 ・須恵器 ・古い型式の須恵器
No35	杯蓋 (蓋) (口脣部) (体部)	口径 11.0 底存高 3.6 脣径 11.0	・口縁部は下外方に下り端部は内傾する凹面をなす。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 天井部 回転ヘラ削り(右回り) ・他是回転ナダ ・内面 回転ナダ	・胎土 密(0.5mm以下の白色粗砂粒を含む) ・色調 内、灰白(10Y7/1) 外、青灰(5B6/1) ・焼成 良好	・構3 ・反転復元 ・須恵器
No36	杯蓋 (身)	口径 11.0 器高 4.8 受部径 12.6	・立ち上がりは内傾してのびたのち短く外反し端部は、内傾する凹面をなす。 ・受部は、水平にのび端部はやや丸い。 ・底部はやや深く丸みをもち、底部は平ら。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 底部約2/3が回転ヘラ削り(左回り) ・他是回転ナダ ・内面 回転ナダ	・胎土 密(0.5mm以下の白色粗砂粒を含む) ・色調 内、青灰(5B6/1) 外、明青灰(5B7/1) ・焼成 やや良好	・構3 ・須恵器
No37	杯蓋 (身)	口径 10.0 器高 4.8 受部径 12.4	・立ち上がりは内傾してのび端部は丸い。 ・受部は水平にのび端部は短く丸い。 ・底部はやや深く丸みを持ち、底部は平らに近い。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 底部削り1/2が回転ヘラ削り(左回り) ・他是回転ナダ ・内面 底部不定方向ナダ ・他是回転ナダ	・胎土 やや密(2.0mm以下の白色粗砂粒を含む) ・色調 内、灰白(10Y7/1) 外、灰白(10Y7/1) ・焼成 やや良好	・構3 ・反転復元 ・須恵器 ・古い型式の須恵器
No38	鉢 (体部)	底存高 4.3	・体部は丸い。 ・底部は平ら。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 体部 平行押き ・内面 指おさえの後ヨコナダ	・胎土 密(0.5mm以下の白色粗砂粒を含む) ・色調 内、青灰(5B7/1) 外、明青灰(5B7/1) ・焼成 良好	・構3 ・反転復元 ・須恵器
No39	甕 (口脣部) (体部)	口径 20.4 底存高 12.0 脣部径 14.8	・口縁部は外反して上方にのび、端部は内傾する凹面をなす。 ・端部下方に一条の凸線をめぐらす。 ・肩部は外下方に下がる。	マキアゲ・ミズビキ分割成形 ・外面 縫部 平行叩き ・他是回転ナダ ・内面 体部 半スリケン ・他是回転ナダ	・胎土 密(3.0mm以下の白色粗砂粒を含む) ・色調 内、青灰(5B5/1) 外、灰赤(2.5YR6/2) ・焼成 良好	・構3 ・須恵器
No40	甕 (口脣部) (体部)	底存高 8.1 脣部径 3.4 体部最大径 11.2	・口縁部は上方にのびたの中位で一条の凸線をめぐらす。 ・端部下方に一条の凸線をめぐらす。 ・端部はやや鋭い。 ・体部は肩形面をなす。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 体部削りのものナダ ・他是回転ナダ ・内面 瓢部と体部の接合部分に指おさえがみめられる。 ・他是回転ナダ	・胎土 密(1.0mm以下の黑色粗砂粒を含む) ・色調 内、灰白(N8/) 外、灰白(N8/) ・焼成 やや良好	・構3 ・須恵器

A 調査区

番号	委 嘱 回収番号	法 量 cm	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
No41	培 (体 部)	残存器高 7.1 体部最大径 10.2	・口縁部は上外方にのびる。 ・体部は最大径を1/2位下に求める偏卵形を成す。	マキアゲ成形 ・外面 上半部 ヘラミガキ 最大径部以下 ヘラ削り ・内面 底体部 ヘラ削り 他ヨコナデ	・胎土 1~2mmの砂粒含む ・色調 内、灰白(10YR8/2) 外、淡黄緑(7.5YR8/3) ・焼成 やや不良	・溝3 ・反転合成 ・土師器
No42	高杯 (杯底)	口径 13.8 残存器高 5.1	・杯部は体部から口縁部にかけて内弯しながら外上方にのび、端部はやや丸い。 ・底部は平らである。基部は無い。	マキアゲ・分割成形 ・外面・内面とも剥落不明	・胎土 1~2mmの砂粒含む ・色調 内、桂(7.5YR7/6) 外、灰白(2.5YR8/2) ・焼成 やや良好	・溝3 ・土師器
No43	高杯 (杯底部)	残存器高 1.9	・底部は平らである。	マキアゲ・分割成形 ・外面・内面とも剥落不明 棒さし痕有り	・胎土 1~2mmの砂粒含む ・色調 内、淡綠(5YR8/4) 外、淡綠(5YR8/4) ・焼成 やや不良	・溝3 ・土師器
No44	高杯 (杯底部)	残存器高 2.2	・底部は平らである。	マキアゲ・分割成形 ・外面 ハケ調 ・内面 剥落不明 棒さし痕有り	・胎土 1~2mmの砂粒含む ・色調 内、淡青(2.5YR7/4) 外、桂(2.5YR6/6) ・焼成 やや不良	・溝3 ・土師器
No45	高杯 (杯底部)	残存器高 1.7	・底部は平らである。	マキアゲ・分割成形 ・外面・内面とも剥落不明 棒さし痕有り	・胎土 1~2mmの砂粒含む ・色調 内、淡黄(2.5YR8/4) 外、淡黄(2.5YR8/4) ・焼成 やや不良	・溝3 ・土師器
No46	高杯 (杯底部)	残存器高 2.1	・底部は平らである。	マキアゲ・分割成形 ・外面・内面とも剥落不明 棒さし痕有り	・胎土 1~2mmの砂粒含む ・色調 内、淡黄(2.5YR8/3) 外、淡黄(10YR8/3) ・焼成 やや不良	・溝3 ・土師器
No47	高杯 (脚部)	残存器高 6.1	・脚部は下外方に下がる。 ・基部は大きい。	マキアゲ成形 ・外面・内面とも剥落不明	・胎土 1~5mmの砂粒含む ・色調 内、灰白(2.5YR8/2) 外、桂(5YR7/6) ・焼成 やや良好	・溝3 ・土師器
No48	高杯 (脚部)	残存器高 4.2	・脚部は下外方に下がる。 ・基部は無い。	マキアゲ成形 ・外面・内面とも剥落不明	・胎土 1~2mmの砂粒を含む ・色調 内、桂(5YR7/6) 外、桂(5YR7/6) ・焼成 良好	・溝3 ・土師器
No49	壺 (腹 部) (体 部)	復元器高 30.0 復元接縫 9.8	・口縁部は上外方にのびる。 ・腹部は、やや深く屈曲し、体部は内弯気味に下外方に下り、やや肩の張った丘陵形を呈す。 ・底部は平底で中央に凹状を呈す。	マキアゲ成形 ・外面 体部ヘラミガキ ・内面 ナデ	・胎土 精良 ・色調 内、灰白(10YR8/2) 外、灰白(10YR8/2) 底部、褐灰(10YR5/1) ・焼成 良好	・溝3 ・反転復元 ・黒斑が認められる。 ・土師器
No50	壺 (底部)		・底部は平らである。	マキアゲ成形 ・外面 ユビオサエ ・内面 剥落不明	・胎土 1~5mmの砂粒を含む ・色調 内、にぶい黄緑(10YR7/3) 外、にぶい黄緑(10YR7/4) ・焼成 不良	・溝3 ・反転復元 ・土師器
No51	壺 (口縁部)	復元口縁 19.0 脚部径 16.8 残存器高 4.9	・口縁部は上外方にのび、端部は丸い。 ・腹部はくの字形に屈曲し、体部は下外方にのびる。	マキアゲ成形 ・外面・内面ともヨコナデ	・胎土 1~2mmの砂粒を含む ・色調 内、にぶい黄緑(10YR7/2) 外、灰白(10YR8/2) ・焼成 やや良好	・溝3 ・反転復元 ・土師器

番号	器種 図版番号	法書 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
No52	壺 (口縁部)	復元口縁 15.4 縁部径 11.8 残存器高 5.0	・口縁部は上外方にのび、端部は丸い。 ・縁部はくの字形に屈曲し、体部は下外方にのびる。	マキアゲ成形 ・外面・内面ともヨコナデ	・胎土 1~2mmの砂粒を含む ・色調 内、淡黄(2.5YR8/3) 外、淡黄(2.5Y7/4) ・焼成 やや不良	・溝3 ・反転復元 ・土師器
No53	壺 (口縁部)	復元口縁 14.8 縁部径 12.4 残存器高 4.5	・口縁部は上外方にのび、端部は丸い。 ・縁部はくの字形に屈曲し、体部は下外方にのびる。	マキアゲ成形 ・外面 ヨコナデ ・内面 口縁部、ヨコナデ ・体部 ヘラケズリ	・胎土 1~5mmの砂粒を含む ・色調 内、淡黄(2.5YR8/3) 外、にぶい黄緑(10YR7/3) ・焼成 やや不良	・溝3 ・反転復元 ・土師器
No54	壺 (口縁部)	復元口縁 21.0 縁部径 18.0 残存器高 5.0	・口縁部は上外方にのび、端部は平たい。 ・縁部はゆるやかに屈曲し、体部は下外方に下がる。	マキアゲ成形 ・外面・内面とも剥落不明	・胎土 1~3mmの砂粒を含む ・色調 内、淡黄緑(7.5YR8/4) 外、淡黄緑(7.5YR8/4) ・焼成 やや良好	・溝3 ・反転復元 ・土師器
No55	壺 (口縁部)	復元口縁 15.0 縁部径 18.0 残存器高 3.5	・口縁部は上外方にのび、端部は丸い。 ・縁部はゆるやかに屈曲し、体部は下外方に下がる。	マキアゲ成形 ・外面・内面とも剥落不明	・胎土 1~3mmの砂粒を含む ・焼成 やや良好	・溝3 ・反転復元 ・土師器
No56	壺 (口縁部)	復元口縁 19.6 縁部径 16.4 残存器高 4.7	・口縁部は上外方にのび、端部は平らである。 ・縁部はゆるやかに屈曲し、体部は下外方にさがる。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部 ヨコナデ	・胎土 1~2mmの砂粒を含む ・色調 内、淡黄緑(7.5YR8/4) 外、淡黄緑(7.5YR8/4) ・焼成 やや良好	・溝3 ・反転復元 ・土師器
No57	壺 (口縁部)	復元口縁 22.0 縁部径 17.8 残存器高 2.8	・口縁部は上外方にのび、端部は平らである。 ・縁部はくの字に屈曲する。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部 ヨコナデ ・内面 剥落不明	・胎土 1~2mmの砂粒を含む ・色調 内、淡黄緑(7.5YR8/4) 外、淡黄緑(7.5YR8/4) ・焼成 やや良好	・溝3 ・反転復元 ・土師器
No58	壺 (口縁部) (体部)	復元口縁 19.2 縁部径 16.4 復元器高 32.0	・口縁部は上外方にのび、端部は丸い。 ・縁部はゆるやかに屈曲し体部は下外方に下がる。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部 ヨコナデ ・内面 口縁部 ヨコナデ ユビオサエ	・胎土 1~3mmの砂粒を含む ・色調 内、にぶい黄緑(10YR7/4) 外、淡黄緑(10YR6/6) ・焼成 やや不良	・溝3 ・反転復元 ・土師器
No59	壺 (口縁部) (体部)	復元口縁 18.0 縁部径 15.0 残存器高 3.7	・口縁部は上外方にのび、端部は四面を呈す。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部 ヨコナデ ・内面 剥落不明	・胎土 精良 ・色調 内、灰白(2.5Y8/2) 外、灰白(10YR8/2) ・焼成 やや良好	・溝3 ・反転復元 ・土師器
No60	壺 (口縁部) (体部)	復元口縁 16.2 縁部径 15.4 残存器高 3.9	・口縁部は上外方にのび、端部は平面を呈す。	マキアゲ成形 ・外面 剥落不明 ・内面 ヨコナデ	・胎土 精良 ・色調 内、灰白(2.5Y8/2) 外、灰白(10YR8/2) ・焼成 やや良好	・溝3 ・反転復元 ・土師器
No61	壺 (口縁部)	復元口縁 13.9 縁部径 12.6 残存器高 4.2	・口縁部は上外方にのび端部は一条の凹線をめぐらす。	内面・外面とも剥落不明	・胎土 やや密(1mmの白黒色の砂粒を含む) ・色調 内、灰白(7.5Y8/2) 外、淡黄(2.5Y8/3) ・焼成 良好	・溝3 ・反転復元 ・土師器
No63	壺 (口縁部) (体部)	復元口縁 15.4 縁部径 15.0 残存器高 6.0	・口縁部は上方に垂直にのび、端部は外反して丸い。 ・縁部もゆるやかに屈曲して下外方に下がる。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部がヨコナデ ・内面 口縁部がヨコナデ ・内面 体部は剥落不明	・胎土 2~3mmの砂粒を含む ・色調 内、淡黄(2.5Y8/3) 外、淡黄(2.5Y8/3) ・焼成 やや不良	・溝3 ・反転復元 ・土師器

A調査区

番号	器種 図版番号	法量 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
No62	甕 (口縁部)	奥元口幅 14.7 肩部径 12.7 残存高さ 3.8	・口縁部は上外方にのび、難部は一 条の凹線をめぐらす。 ・瓶部はゆるやかに屈曲しやや長脚 を呈する球形の体形と思われる。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部は剥落不明 ・内部 剥落不明	・胎土 1mmの砂粒を含む ・色調 内、灰白(10YR8/2) 外、浅黄緑(7.5YRS/3) ・焼成 やや良好	・溝3 ・反転復元・ 土擲器	
No64	甕 (底部)		・底部は中央凹状の平底	マキアゲ成形 ・外面 タタキ ・内面 剥落不明	・胎土 1~3mmの砂粒を含む ・色調 内、淡黄(2.5Y8/3) 外、浅黄緑(7.5YRS/3) ・焼成 不良	・溝3 ・反転復元 ・土擲器	
No65	コシキ把手			手づくね成形	・胎土 1~2mmの砂粒を含む ・色調 外、浅黄緑(7.5YRS/3) ・焼成 やや良好	・溝3 ・反転復元 ・土擲器	
No66	コシキ把手			手づくね成形	・胎土 1~2mmの砂粒を含む ・色調 外、浅黄緑(7.5YRS/4) ・焼成 やや不良	・溝3 ・土擲器	
No67	コシキ把手			手づくね成形	・胎土 1~2mmの砂粒を含む ・色調 外、浅黄緑(7.5YRS/4) ・焼成 やや良好	・溝3 ・土擲器	
No68	コシキ把手		・平狀工具で穴を開けている。	手づくね成形	・胎土 1~3mmの砂粒を含む ・色調 浅黄緑(10YRS/3) ・焼成 やや良好	・溝3 ・土擲器	
No69	コシキ把手		・平狀工具で穴を開けている。	手づくね成形	・胎土 1~3mmの砂粒を含む ・色調 外、淡緑(5YRS/4) ・焼成 良好	・溝3 ・土擲器	
No70	トイガ羽口	長さ 幅 厚さ	5.8 5.4 1.9	・羽口先端部の破片 ・先端部は高溫のため溶解し、海綿 状を成す。	マキアゲ成形	・胎土 1~2mmの砂粒を含む ・色調 内、浅黄緑(7.5 YRS/3) 外 先端部 灰(7.5Y6/1) 灰色(10YRS/2) ・焼成 不良	・溝3 ・土擲器
No71	防護罩	直径 高さ	2.8 1.2				・溝3 ・滑石製
No72	甕 (体部) (破片)			・外面 槌子叩き ・内面 スリケン			・溝3 ・須恵器
No73	甕 (体部) (破片)			・外面 槌子叩き ・内面 スリケン			・溝3 ・須恵器
No74	甕 (体部) (破片)			・外面 槌子様叩き ・内面 スリケン			・溝3 ・須恵器
No75	甕 (体部) (破片)			・外面 平行叩き ・内面 スリケン			・溝3 ・須恵器

番号	器種 図版番号	法量 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
No76	壺 (体部) (破片)			・外面 平行叩き ・内面 半スリケン		・壺3 ・須恵器
No77	壺 (体部) (破片)			・外面 平行叩き ・内面 同心円叩き		・壺3 ・須恵器
No78	壺 (口縁部)	復元口径 18.9 残存器高 5.2	・口縁部は上外方にのびた後、口縁部が外反し端部は肥厚する。	マキアゲ成形 ・外面 ヨコナデ 櫛目 滑状文 ・内面 ヨコナデ	・胎土 1~3mm程度の砂粒を多量に含む ・色調 内、灰(5Y5/1) 外、灰白(10Y8/1) ・焼成 良好	・壺5、下唇 ・自然釉付着 ・須恵器 ・反転復元
No79	小壺 (or壺) (口縁部) (体部)	復元口径 13.2 残存器高 5.2 復元底部 11.2	・口縁部は上外方にのび端部は丸い。 ・底部はくの字形に屈曲し体部は下外方に下がる。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部 ヨコナデ 体部 ハケメ ・内面 口縁部 ヨコナデ 体部 ハケメ	・胎土 1~3mm程度の砂粒を含む ・色調 内、にぶい黄澄(10YR7/3) 外、にぶい黄澄(10YR7/4) ・焼成 良好	・壺5、下唇 ・無蓋 ・上唇器 ・反転復元
No80	小壺	口径 11.5 器高 14.0 縁部径 10.2 体部最大 14.1 径	・口縁部は上外方にのび端部はやや丸い。 ・縁部はゆるやかに屈曲し体部は1/2位に最大径を求める。 ・底部は丸い。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部 ヨコナデ 体・底部 ハケメ ・内面 口縁部 ハケ調整の後ヨコナデ 体・底部 ユビオサエ	・胎土 1mm程度の砂粒を含む ・色調 内、にぶい黄澄(10YR7/4) 外、にぶい黄澄(10YR7/3) ・焼成 良好	・壺5、下唇 ・土輪器 ・型造り
No81	壺 (口縁部) (体部)	口径 15.7 残存器高 18.5 縁部径 14.6 体部最大 24.7 径	・口縁部は上外方にのび端部はやや丸い。 ・縁部はややゆるやかに屈曲し、体部は珠形を成す。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部 ヨコナデ 体部 ハケメ ・内面 口縁部 ヨコナデ・板ナデ 体部 ユビオサエ	・胎土 やや薄(1~3mmの白色の砂粒を含む) ・色調 内、にぶい黄澄(10YR7/3) 外、にぶい黄澄(10YR7/3) ・焼成 良好	・壺5、下唇 ・黒蓋 ・朱絞り ・土唇器
No82	壺 (体部) (破片)			・外面 平行タタキ ・内面 スリケン		・壺5、下唇 ・須恵器
No83	壺 (体部) (破片)			・外面 平行タタキ ・内面 スリケン		・壺5、下唇 ・須恵器
No84	有蓋壺	復元口径 11.0 器高 7.5 受部径 11.2 底径 9.6	・壺部の立ち上がりは、内傾してのびたもの、直立し、端部は丸い。 ・受部は、やや上外方にのび端部はやや丸い。 ・縁部は、下外方に下る。縁部1/2上位に3方向に台形のスカンを有する。	マキアゲ成形 ・外面 端底部の1/3をヘラケズリ (左方向) 他は回転ナデ ・内面 回転ナデ	・胎土 密 ・色調 内、灰白(N7/) 外、灰白(N7/) ・焼成 良好	・壺5、中唇 ・須恵器 ・耳部反転合皮
No85	壺 (口縁部)	復元口径 19.4 元頂部 15.2 残存器高 4.5	・口縁部は上外方にのび、屈曲してさらに上外方にのびる。 ・縁部はやや丸い。 ・下方に一条の凸脊を造る。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 回転ナデ ・内面 回転ナデ	・胎土 密(0.1mmの黒色微砂粒を含む) ・色調 内、灰白(10Y7/1) 外、明青灰(10PG7/1) ・焼成 良好	・壺5、中唇 ・須恵器 ・反転復元

A 調査区

番号	器種 図版番号	法量 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
No.66	高杯 (杯底部)	残存器高 1.8	・底盤は平らである	マキアゲ・分割成形 ・内面・外面とも割落不明 ・擦さし痕有り	・胎土 精良 ・色調 内、橙(5YR7/6) 外、緑(5YR7/6) ・焼成 良好	・素5 ・土加器
No.67	高杯 (杯底部)	残存器高 2.0	・底盤は平らである	マキアゲ・分割成形 色濃砂粒を含む ・内面 刻落不明 ・外面 ハケ ・擦さし痕有り	・胎土 精良 ・色調 内、橙(2.5YR7/8) 外、緑(2.5YR7/8) ・焼成 良好	・素5 ・土加器
No.68	小甌	口径 10.4 器高 12.7 縁部径 9.5 体部最大径 13.6	・口縁部は上外方にのび端部は丸い。 ・腹部はややゆるやかに屈曲し、体部は1/2上位に最大径を求める球形を成す。 ・底盤は丸い。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部 ヨコナデ 体部 ハケメ ・内面 口縁部 ハケ調整の後ヨコナデ 体部 ヨビオサエ	・胎土 緩(1mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、緑(5YR7/6) 外、緑(5YR2/6) ・焼成 良好	・素5、中層 ・土加器 ・型造り
No.69	小甌 (口縁部) (体部)	復元口径 10.9 残存器高 3.7 復元縁部 10.0 径	・口縁部は上外方にのび端部はやや丸い。 ・腹部は、くの字形に屈曲する。体部は内凹して下外方にくだる。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部 ヨコナデ 体部 ハケメ ・内面 口縁部 ヨコナデ 体部 ヨコナデ	・胎土 やや緩(0.1~2mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、に赤い黄緑(10YR7/4) 外、に赤い 緑(7.5YR7/4) ・焼成 良好	・素5、中層 ・土加器 ・反転復元
No.70	甌 (口縁部)	復元口径 15.0 残存器高 2.7 復元縁部 12.4 径	・口縁部は、外反しながら上方にのび、端部はやや鋭い。	マキアゲ成形 ・外面 ヨコナデ ・内面 ヨコナデ	・胎土 緩(0.1~1mmの白色砂粒と石英を含む) ・色調 内、淡黄(2.5Y8/3) 外、淡黄(2.5Y8/3) ・焼成 良好	・素5、中層 ・土加器 ・反転復元
No.71	甌 (体部) (破片)			・外面 平行叩き ・内面 スリケン		・素5、中層 ・須恵器
No.72	甌 (体部) (破片)			・外面 平行叩き ・内面 スリケン		・素5、中層 ・須恵器
No.73	甌 (体部) (破片)			・外面 平行叩き ・内面 同心円、円弧叩き		・素5、中層 ・須恵器
No.74	杯蓋 (口縁部) (体部)	口径 10.2 残存器高 3.8	・口縁部は下外方にくだり端部は、内側する浅い凹面を成す。	マキアゲ、1スピキ成形 ・外面 回転ナデ ・内面 回転ナデ	・胎土 やや緩(1~4mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、灰(N6/) 外、灰(5Y4/1) ・焼成 良好	・素5、上層 ・須恵器 ・反転復元

番号	器種 固版番号	法量 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
No85	竈 (頭部) (体部)	残存器高 8.5 脚部径 6.5 体部径 10.5	・体部は偏球径を有す。 ・体部L/2上位に円孔スカンを有す。	マキアゲ、ミズビキ成形 ・外面 口縁部 横搖、波状文 ・体部 L/2上部に横搖、波状文 他は ヨコナデ	・胎土 やや密(1~2mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、灰(10Y4/1) 外、灰(10Y5/1) ・燒成 良好	・溝5、上層 ・自然釉付着 ・須恵器
No86	裏 (口縁部)	復元口径 20.9 残存器高 1.8	・口縁部は外反し端部は肥厚する。	マキアゲ、ミズビキ成形 ・外面 回転ナデ ・内面 回転ナデ	・胎土 やや密(1~2mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、灰(10Y4/1) 外、灰(10Y5/1) ・焼成 良好	・溝5、上層 ・須恵器 ・反転復元
No87	高杯 (脚部)	残存器高 2.3		マキアゲ成形 ・外面 ナデ ・内面 ナデ	・胎土 やや密(0.1mmの白色砂粒、雲母を含む) ・色調 内、浅黄緑(10YR8/3) 外、浅黄緑(10YR8/3) ・焼成 良好	・溝5、上層 ・土師器
No88	裏 (口縁部)	復元口径 14.0 残存器高 4.1 復元脚部 12.8	・口縁部は、上外方にのびる。端部は丸い。	マキアゲ成形 ・外面 ヨコナデ ・内面 ヨコナデ	・胎土 緩(1~3mmの白黒色砂粒を含む) ・色調 内、灰白(10YR8/1) 外、淡黄(2.5Y8/3) ・焼成 良好	・溝5、上層 ・土師器 ・反転復元
No89	コシキ (把手)			手すくね皮影 ・外面 ハケ	・胎土 緩(1~3mmの白色砂粒を含む) ・色調 外、棕(7.5YR7/6) ・焼成 良好	・溝5、上層 ・土師器
No90	裏 (体部) (破片)			・外面 平行叩き ・内面 円弧叩き		・溝5、上層 ・須恵器
No91	裏 (体部) (破片)			・外面 平行叩き ・内面 半スリケシ		・溝5、上層 ・須恵器
No102	高杯 (脚部)	残存器高 6.7 復元底部 11.0 蓋	・脚部はやや外寄しながら下外方に下がり端部は内傾して肥厚し1条の凸巻を有する。 ・4方向に長方形スカシを有する。	・外底 剥落不明 ・内面 回転ナデ ・脚部 カキメ ・端部 回転ナデ	・胎土 やや密(0.1~1mmの白色微砂粒を含む) ・色調 内、灰(7.5Y6/1) 外、灰(7.5Y5/1) ・焼成 良好	・溝5 b ・須恵器
No103	裏 (口縁部) (体部)	復元口径 14.6 残存器高 8.0 復元底部 12.6 蓋	・口縁部は上外方にのび端部は丸い。 ・脚部はゆるやかに屈曲し体部は内寄しながら下外方に下る。 ・4方向に長方形スカシを有する。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部 ヨコナデ ・内面 口縁部 ヨコナデ ・体部 ハケメ ・内面 口縁部 ヨコナデ ・体部 ニビオサエ	・胎土 やや密(0.1~2mmの白色黑色砂粒を含む) ・色調 内、浅黄緑(10YR8/3) 外、浅黄緑(10YR8/3) ・焼成 良好	・溝5 b ・土師器 ・反転復元
No104	低脚高杯 (杯部) (脚部)	基盤径 3.8 残存器高 6.4	・杯部は内寄しながら外上方にのびる。 ・脚部は外下方にひらく。 ・3方向に円孔を穿つ。	マキアゲ成形 ・外面 ヘラミガキ ・内面 杯部 ヘラミガキ ・脚部 ナデ	・胎土 1~2mm程度の砂粒を少々含む ・色調 内、にじい植(5YR7/4) 外、棕(5YR6/6) ・焼成 良好	・溝6 ・搬入品

A 調査区

番号	器種 図版番号	法量 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
No105	鉢 (口縁部)	残存器高 3.3	・口縁部は外方向にのびたのち口縁部で屈曲しさる外方向でのびる。	マキアゲ成形 内面・外側とも剥落不明	・胎土 1mm程度の砂粒を含む ・色調 内、淡黄(2.5YR8/4) 外、淡黄(2.5YR8/4) ・焼成 良好	・表6
No106	高杯 (脚部)	脚部径 4.8 残存器高 5.3	・脚部は外方に下ったのも屈曲しさる外方向に下る。 ・屈曲部分に3方向の円孔を穿つ。	マキアゲ成形 ・外面 ナデ ・内面 ナデ	・胎土 精良 ・色調 内、黄鉄(10YR8/6) 外、橙(5YR7/6) ・焼成 良好	・表6
No107	盤台	杯部径 13.5 基部径 3.7	・杯部は全体から口縁部にかけて内唇気味に上外方にのびる。 ・脚部は下外方に下がる。 ・脚部口2上位に4方向の円孔を穿つ。	マキアゲ成形 ・外面 ナデ ・内面 ナデ	・胎土 精良 ・色調 内、淡黄(2.5YR8/4) 外、淡黄(2.5YR8/4) ・焼成 良好	・表6
No108	壺 (口縁部)	復元口径 13.4 残存器高 4.5	・口縁部は基部より上外方にのび、短く反したのち上外方にのびる。 端部はつまみあげ。	マキアゲ成形 ・外面 ヨコナデ ・内面 ヨコナデ	・胎土 1~3mm程度の砂粒を少々含む ・色調 内、淡黄(5YR8/4) 外、淡黄(7.5YR8/3) ・焼成 良好	・表6
No109	壺 (腹 部)	残存器高 4.3	・口縁部は外上方にのびたのち屈曲し上外方にひらく。	マキアゲ成形 ・外面 ヨコナデ ・内面 ヨコナデ	・胎土 1~2mm程度の砂粒を少々含む ・色調 内、淡黄(10YR8/3) 外、淡黄(7.5YR8/3) ・焼成 良好	・表6 ・反転復元
No110	壺 (底部)	残存器高 3.0 底径 5.0	・底部は平面である。	内面・外側とも剥落不明	・胎土 精良 ・色調 内、黄(2.5Y8/6) 外、淡黄(5Y8/3) ・焼成 良好	・表6
No111	壺 (底部)	残存器高 3.0 底径 3.9	・底面は平面である。	マキアゲ成形 ・外面 ハケメ ケズリ、ユビオサエ ・内面 ハケメ	・胎土 1~2mm程度の砂粒を少々含む ・色調 内、オリーブ黒(5Y3/1) 外、灰白(5Y8/2) ・焼成 良好	・表6
No112	壺 (口縁部) (体 部)	復元口径 13.8 残存器高 8.1	・口縁部は口縁基部より外側して上外方に上がる。 ・端部は丸い。 ・体部は下外方に下がる。	マキアゲ成形 ・外面 口縁部 ヨコナデ 体部 タタキ ・内面 口縁部 ヨコナデ 体部 梶合模	・胎土 1~2mm程度の砂粒を多量に含む ・色調 内、淡黄(2.5YR8/4) 外、淡黄(10YR8/3) ・焼成 良好	・表6 ・反転復元
No113	壺 (颈 部) (体 部)	復元颈部 10.4 口径 6.5	体部は下外方に下がる。	マキアゲ成形 ・外面 タタキ ・内面 ヨコナデ	・胎土 1~5mm程度の砂粒を少々含む ・色調 内、淡黄(10YR8/4) 外、淡黄(2.5YR8/3) ・焼成 良好	・表6 ・反転復元
No114	壺 (体 部) (底 部)	残存器高 17.0 復元体部 15.7 最大径	・体部は最大径を1/2中位に求める長胴形を呈す。 ・底部は平底で凹を呈す。	マキアゲ成形 ・外面 体部 タタキ 底部 ユビオサエの後ナデ 梶合模 ・内面 体部 不定方向ナデ 底部 ユビオサエの後ナデ	・胎土 0.5~2mm程度の砂粒を含む ・色調 内、淡黄(2.5YR8/3) 外、淡黄(10YR8/3) ・焼成 良好	・表6 ・反転復元

番号	器種 図版番号	法量 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
No115	甕 (口縁部)	復元口径 15.0 残存口径 2.8	・口縁部は上方にびのり端部はやや丸い。	マキアゲ成形 ・端部 ユビオサエ 施 不明	・胎土 1~2mm程度の砂粒を少々含む ・色調 内、淡黄褐色(10YR8/4) 外、淡黄褐色(10YR8/4) ・焼成 良好	・溝6 ・反転復元
No116	甕 (肩部) (体部)	復元頂部 12.6 残存高 6.5	・体部は内窪して下外方に下がる。	マキアゲ成形 ・外面 ハケの後ヨコナデ ・内面 ヘラケズリ	・胎土 菊良 ・色調 内、にぶい黄褐色(10YR6/4) 外、にぶい緑(7.5YR6/4) ・焼成 良好	・溝6 ・基盤2cm ・叢入品(庄内甕) ・反転復元
No117	甕 (底部)	残存器高 2.75 底径 4.7	・底部は凹状の平底	マキアゲ成形 ・外面 タタキ後ナデ ・内面 ナデ	・胎土 1mm程度の砂粒を含む ・色調 内、褐灰(10YR4/1) 外、灰青(2.5Y7/2) ・焼成 良好	・溝6 ・スス付着 ・土脚器
No118	甕 (底部)	残存器高 1.8 底径 3.8	・底部は凹状の平底	マキアゲ成形 ・外面 タタキ ・内面 ナデ	・胎土 1~2mm程度の砂粒を含む ・色調 内、にぶい黄褐色(10YR7/2) 外、緑(2.5Y7/6) ・焼成 良好	・溝6 ・土脚器
No119	甕 (底部)	残存器高 3.0 底径 4.0	・底部は凹状の平底	マキアゲ成形 ・外面 タタキ ・内面 ナデ	・胎土 1~2mm程度の砂粒を含む ・色調 内、灰白(2.5Y7/1) 外、黄灰(2.5Y4/1) ・焼成 良好	・溝6 ・土脚器
No120	甕 (底部)	残存器高 2.2 底径 2.3	・平い丸底を呈す。	マキアゲ成形 ・外面 タタキ ・内面 ナデ、ユビオサエ	・胎土 1~2mm程度の砂粒を含む ・色調 内、灰黄(2.5Y7/3) 外、暗褐灰(5YR7/2) ・焼成 良好	・溝6 ・土脚器
No121	低脚高杯	残存器高 4.0	・脚部は外下方にひらく。 ・脚部中位に4方向の円弧すかしを穿つ。	マキアゲ成形 ・外面 脚部 ナデ ・内面 ナデ	・胎土 やや硬(0.1~1mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、棕(5YR6/8) 外、にぶい緑(7.5YR7/4) ・焼成 良好	・土盛1
No122	甕 (体部)	残存器高 6.1 縁部径 5.2	・体部は最大径を1/2下方に求める。	マキアゲ成形 ・外面・内面とも剥落不明	・胎土 硬(0.1~4mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、棕(7.5YR6/8) 外、黄褐(10YR5/6) ・焼成 良好	・土盛1 ・二重口縁
No123	甕 (体部) (底部)	残存器高 10.8	・体部は球形を呈する。	マキアゲ成形 ・外面 ハケの後ナデ ・内面 ユビオサエ、ヘラケズリ	・胎土 硬(1mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、にぶい黄褐色(10YR6/3) 外、暗灰黄(2.5Y5/2) ・焼成 良好	・土盛1 ・型作りの可能性有り (布留蠅向甕) ・反転合底
No124	甕	口径 14.4 脚部径 10.6 器高 20.8	・口縁部は、口振基部より外凸して上外方にびのり、直立する。 端部はやや鋸い。 ・体部は球形を呈する。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 口縁部 ナデ 体 部 タタキ ・内面 口縁部 ナデ 体 部 同心円、円弧タタキ	・胎土 硬(1~5mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、明青灰(10BG7/1) 外、明青灰(5B7/1) ・焼成 やや良好	・86年度試掘 ・須恵器

B 調査区

番号	岩種 図版番号	法量 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
No125	杯蓋 (蓋)	口径 12.0 器高 4.5 底径 12.0	・口縁部は下外方に下り端部は凹面をなす。 ・天井部は丸みを帯びる。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 右回りヘラ削り ・内面 回転ナデ	・胎土 砂(1~2mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、灰(10Y5/1) 外、灰白(10Y7/1) ・焼成 良好	・井戸1、下層 ・内面に同心円文スタンプを有する。 ・須恵器
No126	杯蓋 (蓋)	口径 11.6 器高 4.0 底径 11.4	・口縁部は下方に下り端部は不明瞭な凹面をなす。 ・天井部は丸みを帯びる。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 左回りヘラ削り ・内面 回転ナデ	・胎土 やや薄(0.1~2mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、灰(N6/1) 外、灰(N5/1) ・焼成 良好	・井戸1、下層 ・須恵器
No127	杯蓋 (蓋) (口縫部) (全体)	口径 11.0 残存器高 3.7 底径 10.8	・口縁部は下方に下り端部は不明瞭な凹面をなす。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 左回りヘラ削り ・内面 回転ナデ	・胎土 やや薄(0.1~1mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、灰(N6/1) 外、灰(10Y6/1) ・焼成 良好	・井戸1、下層 ・須恵器 ・反転復元
No128	杯蓋 (身)	口径 10.6 器高 4.5 受部径 12.8	・たちがりは内傾してのび、端部は不明瞭な凹面をなす。 ・底部は丸みを帯びている。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 左回りヘラ削り ・内面 天井部 不定方向ナデ 他は回転ナデ	・胎土 やや薄(0.1~2mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、灰(7.5Y8/2) 外、灰(7.5Y6/1) ・焼成 不良	・井戸1、下層 ・須恵器
No129	杯蓋 (身)	口径 11.0 器高 5.0 受部径 13.0	・たちがりは内傾してのび、端部は丸い。 ・底部は平らに近い。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 左回りヘラ削り ・内面 回転ナデ 口縫部沈線あり	・胎土 やや薄(0.1~2mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、明オリーブ灰(2.5GY7/1) 外、灰(10Y6/1) ・焼成 良好	・井戸1、下層 ・須恵器
No130	杯蓋 (身)	口径 10.0 器高 4.5 受部径 11.6	・たちがりは内傾してのび、端部は凹面をなす。 ・底部は丸味を帯びる。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 左回りヘラ削り	・胎土 砂(1~2mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、灰白(N7/1) 外、灰白(N7/1) ・焼成 良好	・井戸1、下層 ・須恵器
No131	高杯 (脚部)	残存器高 2.0 底径 9.0	・脚部はなだらかに外方向に下がる。	マキアゲ成形 ・外面 ナデ ・内面 ニビオサエ、ナデ	・胎土 やや薄(0.1~2mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、淡黄(2.5Y8/3) 外、淡黄(2.5Y8/3) ・焼成 良好	・井戸1、下層 ・土師器 ・反転復元
No132	甕 (底部)	残存器高 1.5 底径 3.6	・底部は平底。	・丸底の甕に輪台をつけたもの	・胎土 粗(3mm以下砂粒多量に含む) ・色調 内、淡黄(2.5Y8/3) 外、淡黄(2.5Y7/3) ・焼成 やや不良	・井戸1、下層 ・土師器
No133	コシキ 把手			・手すくね	・胎土 やや薄(1mm以下の砂粒含む) ・色調 内、淡黄(10YR8/4) 外、淡黄(10YR8/4) ・焼成 良好	・井戸1下層 ・土師器
No134	甕 (体部) (吸片)			・外面 平行引き ・内面 ホスピリケシ		・井戸1、下層 ・須恵器

番号	器種 図版番号	法量 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
No135	甕 (体部) (破片)			・外面 平行タタキ ・内面 円弧タタキ		・井戸1、中層 ・須恵器
No136	杯蓋 (蓋)	口径 11.0 器高 3.6 底径 10.4	・口縁部は下外方に下り、端部は不明瞭な凹面をなす。 ・天井部は丸みを帯びる。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 左回りハラ削り ・内面 天井部 多方向ナデ その他 回転ナデ	・胎土 やや密(1mm程度の砂粒を含む) ・色調 内、灰(10Y6/1) 外、灰(10Y6/1) ・焼成 良好	・井戸1、中層 ・須恵器 ・反転復元
No137	杯蓋 (身) (口縁部) (体 部)	口径 11.0 残存器高 4.2 受部径 12.2	・たちあがりは内傾してのび端部は不明瞭な凹面をなす。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 左回り回転 ハラ削り ・内面 天井部 多方向ナデ その他 回転ナデ	・胎土 密(1mm以下の砂粒を含む) ・色調 内、灰(10Y6/1) 外、灰(10Y6/1) ・焼成 良好	・井戸1、中層 ・須恵器 ・反転復元
No138	甕 (口縁部)	口径 46.0 残存器高 2.0	・口縁部は上外方にのび口縁部に凸唇を有する。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 回転ナデ ・内面 回転ナデ	・胎土 密(1mm以下の砂粒少量を含む) ・色調 内、灰(N6/) 外、灰(N4/) ・焼成 良好	・井戸1、中層 ・須恵器 ・反転復元
No139	椀	口径 13.4 器高 4.5	・体部から口縁部にかけて内凹しながら上外方にのび端部は丸い。 ・底部は平底。	・手すべくね成形	・胎土 疊(0.5~4mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、淡黄(2.5Y8/3) 外、淡黄褐(10YR8/3) ・焼成 良好	・井戸1、中層 ・土師器
No140	高杯	口径 13.4 残存器高 9.4	・杯部は体部から口縁部にかけて内凹しながら上外方にのび端部は丸い。	マキアゲ成形 ・外面 脊部 口縁部 回転ナデ その他 ハケ 脚部 ミガキ ・内面 脊部 口縁部 回転ナデ その他 多方向ナデ 脚部 しばり	・胎土 やや密(0.1~0.5mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、灰(2.5Y7/6) 外、灰(2.5YR7/6) ・焼成 良好	・井戸1、中層 ・土師器
No141	甕 (口縁部)	口径 17.0 残存器高 2.6	・口縁部は上外方にのび端部は丸くおさえる。	マキアゲ成形 ・外面 ヨコナデ ・内面 ヨコナデ	・胎土 密(1~3mmの砂粒少量を含む) ・色調 内、灰(Y6/1) 外、灰白(N7/) ・焼成 良好	・井戸1、中層 ・土師器 ・反転復元
No142	甕 (底部)	残存器高 1.8 底径 4.2	・底部は平底	・丸底の裏に輪台をつけたもの	・胎土 疊(1~4mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、灰黄(2.5Y7/2) 外、に点入 灰(5YR7/3) ・焼成 良好	・井戸1、中層 ・土師器
No143	フイゴ 羽 口	長さ 7.1 幅 6.6 厚さ 2.1	・複底がありの円錐形を呈する。 ・先端部は、淡灰黒色に変色する。	・マキアゲ成形	・胎土 疊(0.5~3mmの白色砂粒を含む) ・色調 内、橙(7.5YR7/6) 外、先端部 灰(10Y5/1) 淡黄(2.5Y7/3) ・焼成 良好	・井戸1、中層 ・土師器
No144	甕 (体部) (破片)			・外面 條子タタキ ・内面 スリケシ		・井戸1、中層 ・須恵器

B調査区

番号	器種 図版番号	法量 cm	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
No145	甕 (体部) (破片)			・外面 平行タタキ ・内面 スリケシ		・井戸1、中層 ・須恵器
No146	甕 (体部) (破片)			・外面 平行タタキ ・内面 円弧タタキ		・井戸1、中層 ・須恵器
No147	甕 (体部) (破片)			・外面 平行タタキ ・内面 圓心円タタキ		・井戸1、中層 ・須恵器
No148	杯蓋 (蓋) (口縁部) (体部)	口径 12.0 残存高 3.8 直径 12.7	・口縁部は下外方に下り端部は平ら。 ・天井部は丸味を帯びるものと思われる。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 右側リヘラ削り ・内面 回転ナデ	・胎土 やや粗 ・色調 内、灰褐色(5YR6/2) 外、灰(7.5Y5/1) ・焼成 やや不良	・溝1 ・須恵器 ・反転復元
No149	甕 (底部)	残存高 2.3 底部径 5.4	・底窓は凹状の平窓	・丸底の臺輪を付けたもの	・胎土 やや薄(0.5~2mm)の白色砂粒 を含む) ・色調 内、灰白(10YR8/2) 外、赤褐色(10R6/6) ・焼成 良好	・溝1 ・土輪器
No150	甕 (口縁部)	口径 20.0 残存高 3.1	・口縁部は上外方にのび口縁部に凸 部を有する。 ・端部は内傾した平端面をなす。	マキアゲ・ミズビキ成形 ・外面 回転ナデ ・内面 回転ナデ	・胎土 粗 ・色調 内、灰(5Y6/2) 外、灰白(5Y7/1) ・焼成 良好	・溝2 ・須恵器 ・反転復元
No151	高杯	口径 13.4 復元高 10.5 底径 10.2	・杯部は体部から口縁部にかけて内 窓しながら上外方への口縁部は丸 い。 ・脚部は据部下位より外にひらく。	マキアゲ・分割成形 ・外面 回転ナデ ・内面 回転ナデ	・胎土 粗 ・色調 内、灰(5Y6/1) 外、灰白(5Y7/1) ・焼成 やや不良	・溝2 ・須恵器 ・杯部、脚部 は反転復元
No152	甕 (口縁部) (体部)	復元口径 14.5 残存高 6.2	・口縁部は上外方にのび端部は内方 にわずかに肥厚する。	マキアゲ成形 ・背面 ヨコナデ ・内面 口縁部 ハケ 体部 ヘラ削り	・胎土 やや密(1~2mmの砂粒含む) ・色調 内、浅黄褐色(7.5YR8/4) 外、浅黄褐色(7.5YR8/4) ・焼成 やや不良	・溝2 ・土師器 ・反転復元
No153	高杯 (脚部)	残存高 5.5	・脚部は下方に下ったのち端部下位 より外下方にひらく。	マキアゲ成形 ・外面 ユビオサエ ・内面 脚部 縦り目 他はナデ	・胎土 粗 ・色調 内、にぶい褐色(7.5YR7/4) 外、にぶい黄褐色(10YR7/2) ・焼成 良好	・溝2 ・黒斑 ・土師器

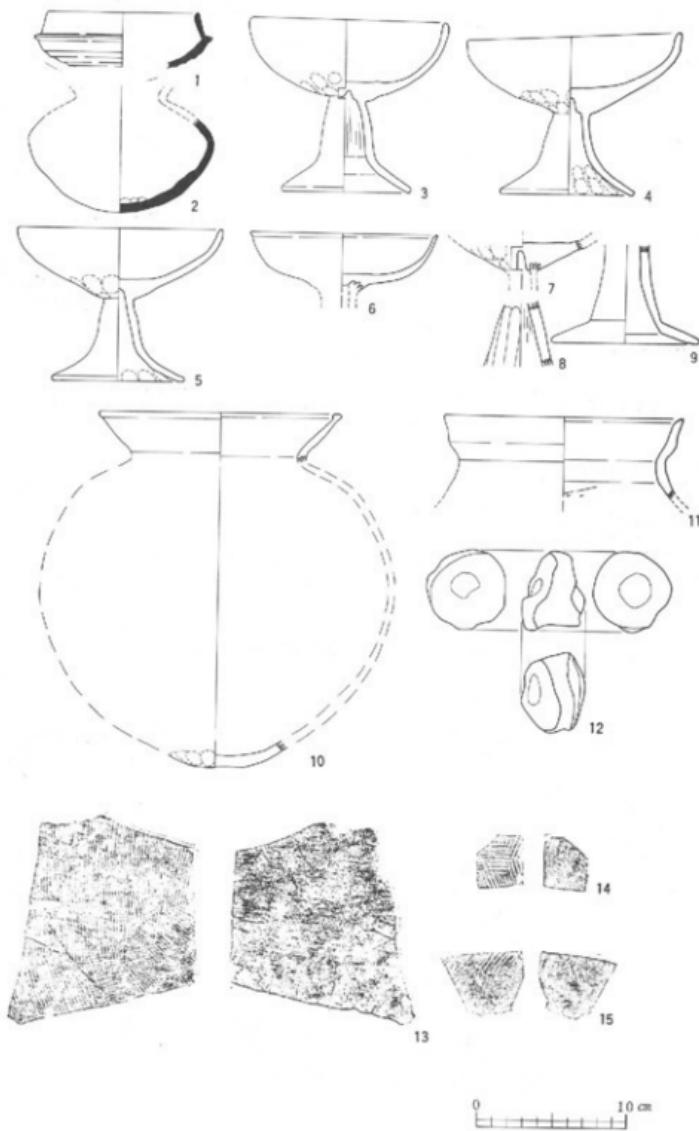


图 8 A 地区溝 1 出土遺物実測図

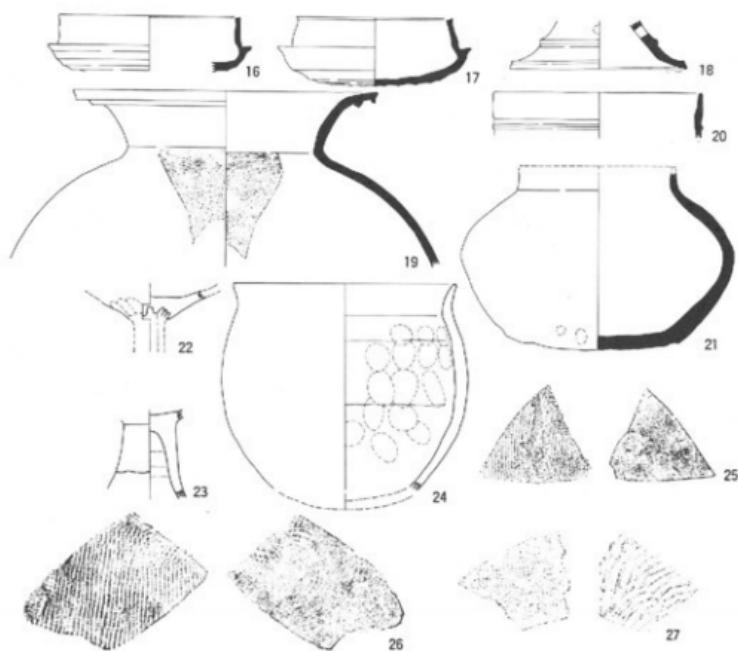


图9 A地区溝2(土塙5)出土遺物実測図

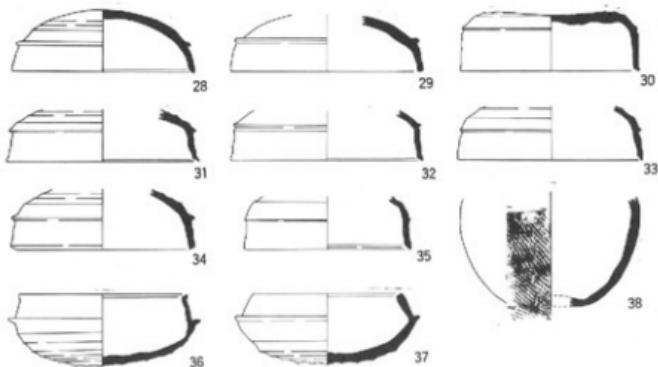


图10 A地区溝3出土遺物実測図①

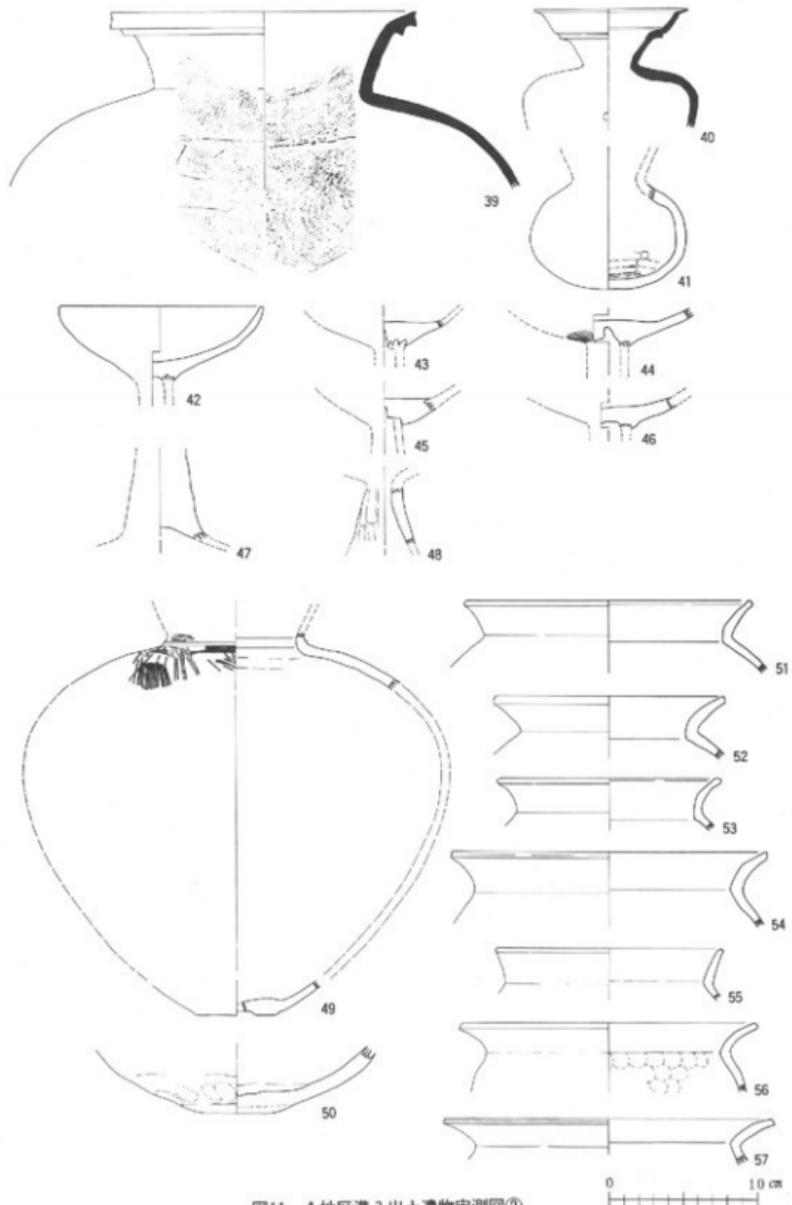


図11 A地区溝3出土遺物実測図②

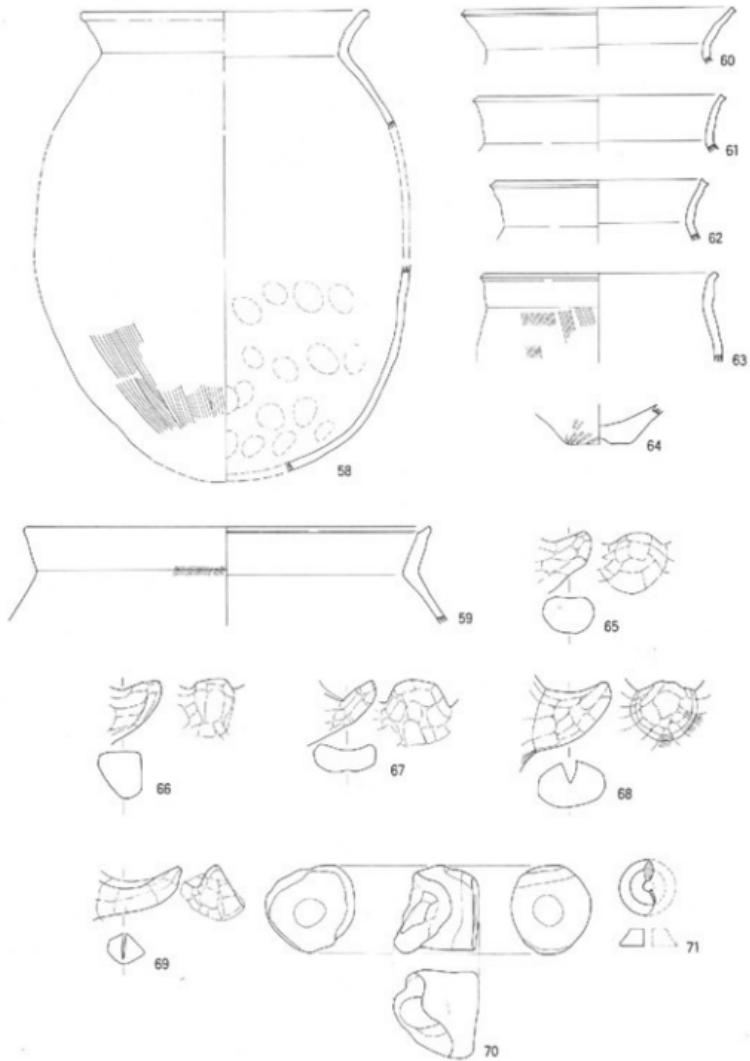


图12 A地区溝3出土遺物実測図③



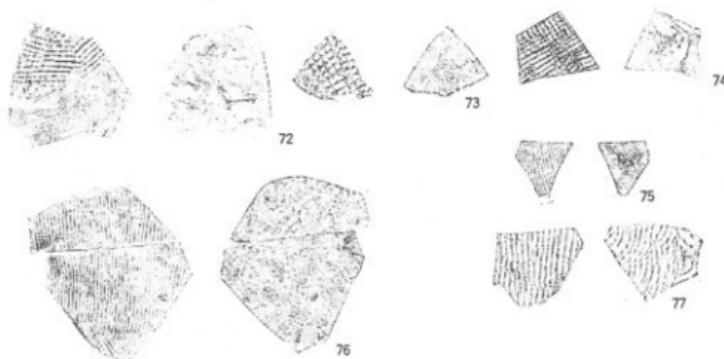


图13 A地区溝3出土遺物実測図①

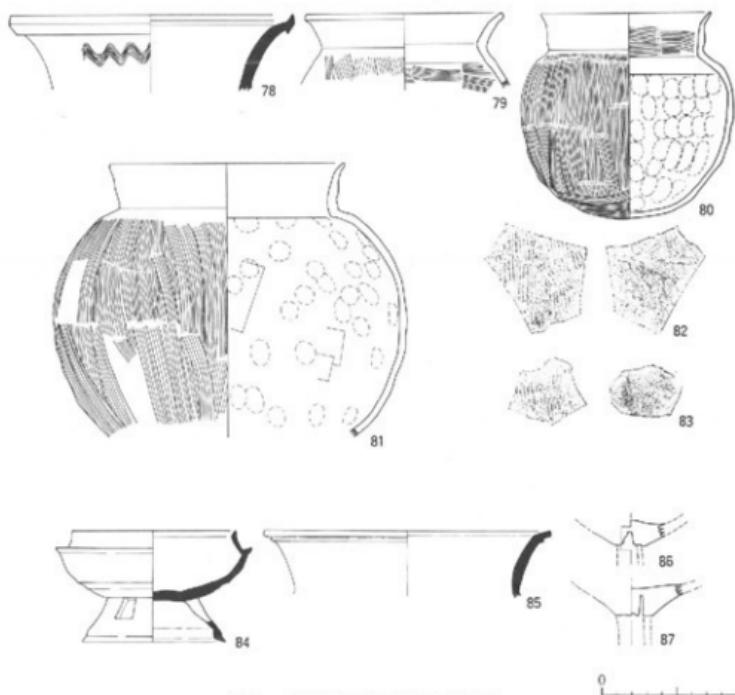


图14 A地区溝5出土遺物実測図①

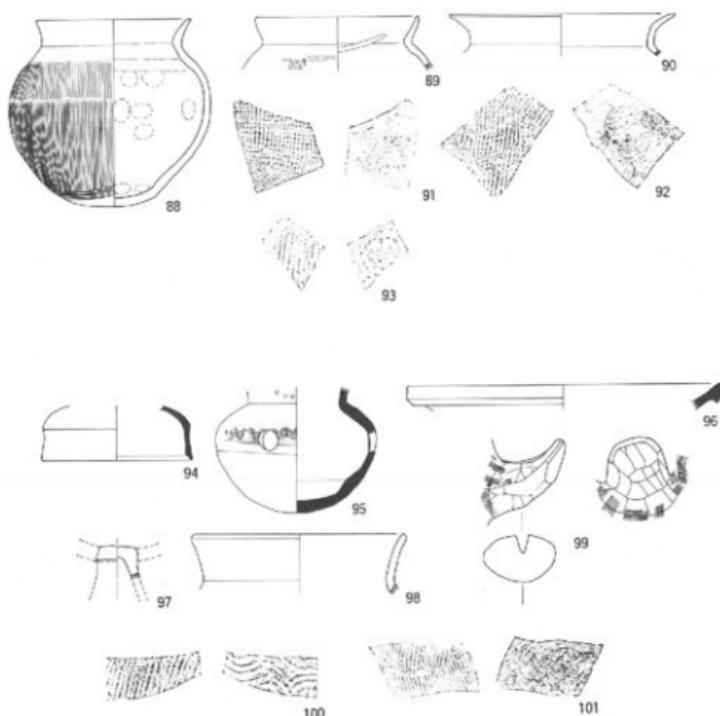


图15 A地区溝5出土遺物実測図②

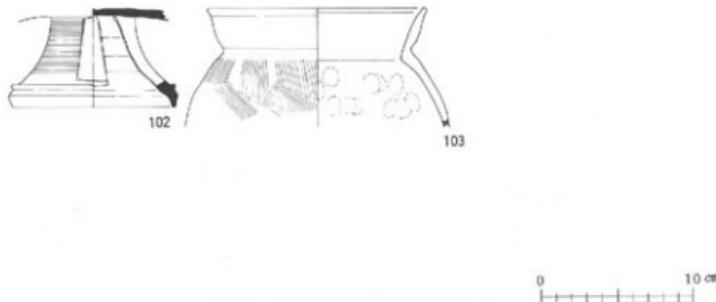


图16 A地区溝5 b出土遺物実測図

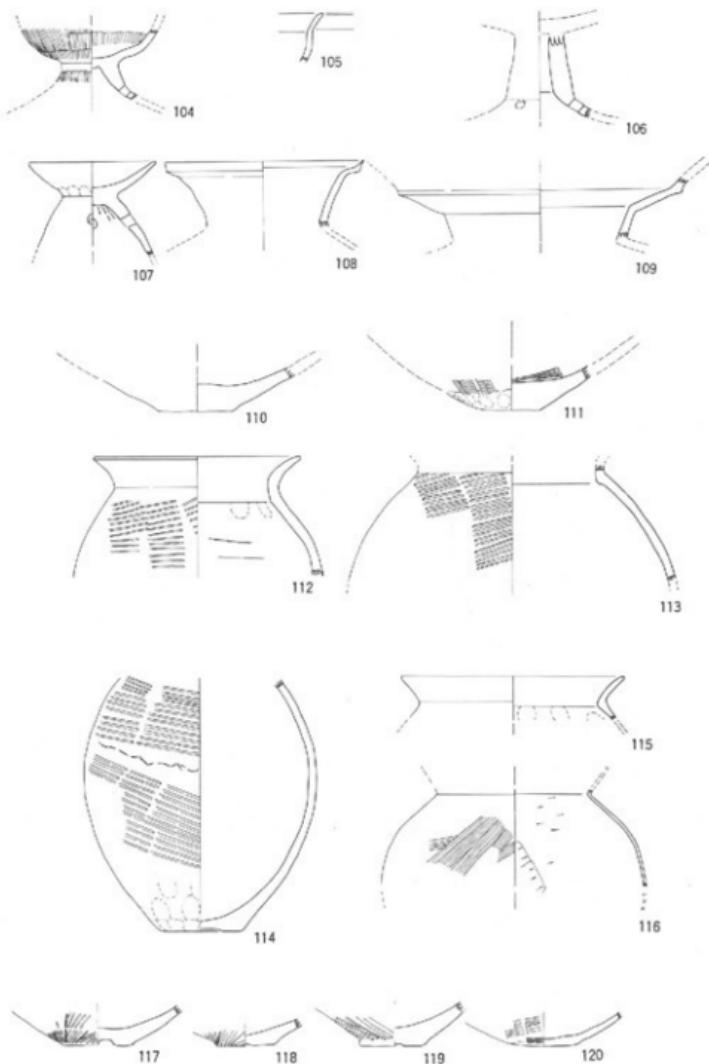


図17 A地区溝6出土遺物実測図

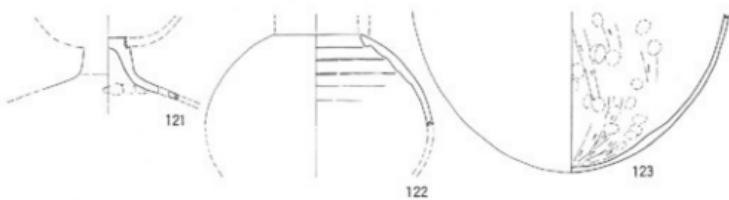


図18 A地区土塁1出土遺物実測図

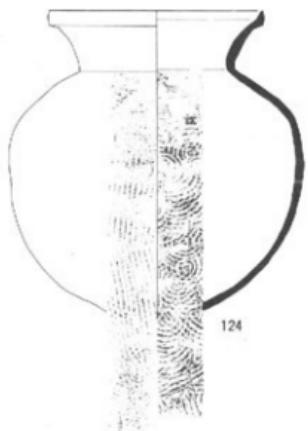


図19 A地区86年度試掘時出土遺物実測図



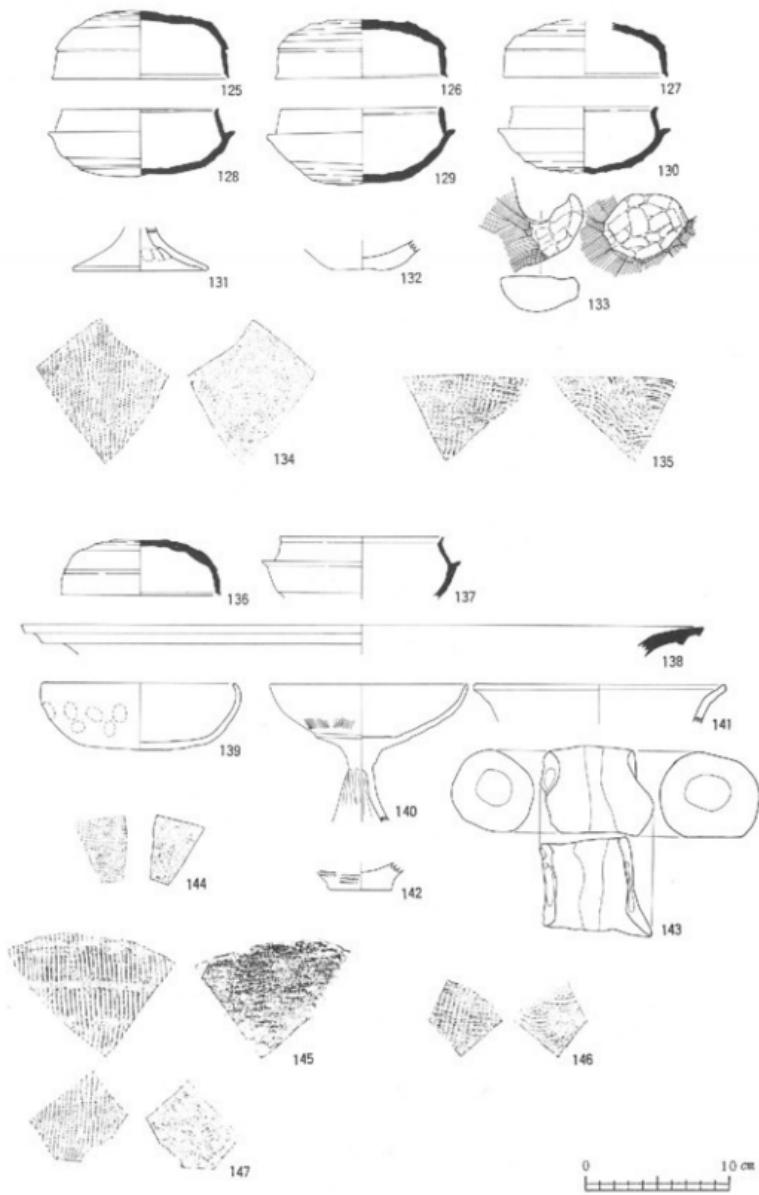


図20 B地区井戸1出土遺物実測図



図21 B地区溝1出土遺物実測図

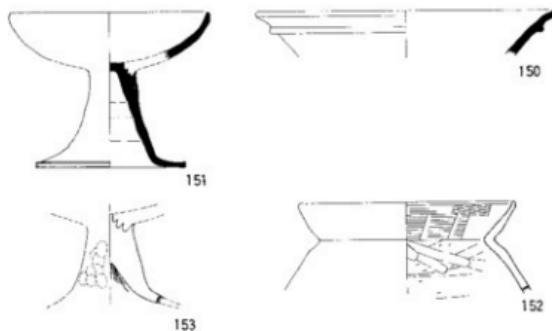


図22 B地区溝2出土遺物実測図



(2) 森遺跡出土の自然遺物

B地区の井戸1からウリ科の種子が6点出土した他、同じく井戸1から桃の種子が21点、A地区の溝5から3点、溝3から1点出土している。稲田桃の種子である。

	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴	出土位置
1	2.60	2.60	1.80	円型・大	B地区井戸1下層
2	2.60	2.25	1.65	"	"
3	2.45	2.35	1.65	"	"
4	2.40	1.95	1.45	先尖・大	"
5	2.30	2.05	1.55	円型・中	"
6	2.30	1.95	1.90	先尖・中	"
7	2.35	2.05	1.50	"	"
8	2.15	1.95	1.50	"	"
9	2.20	2.00	1.70	"	"
10	1.95	1.90	1.45	円型・小	"
11	2.00	1.75	1.35	先尖・小	"
12	2.00	(1.65)	(1.50)	"	"
13	1.80	1.60	1.45	"	"
14	2.00	1.60	1.30	"	"
15	1.85	1.55	(1.30)	"	"
16	2.35	(1.90)	(0.85)	円型・大	"
17	1.80	1.65	(0.70)	先尖・小	"
18	(1.90)	(1.55)	(0.65)	"	"
19	1.60	1.50	(0.70)	円型・小	"
20	(1.60)	(1.10)	(0.55)	"	"
21	(1.70)	(1.20)	(0.40)	不明	"
22	2.10	1.45	(0.75)	先尖・中	A地区溝5下層
23	(1.75)	(1.55)	(0.80)	円型・小	"
24	(1.90)	(1.05)	(0.65)	先尖やや細い	A地区溝5中層
25	2.00	(1.20)	(1.50)	円型・小	A地区溝3

表1 森遺跡出土核の大きさ

注① () は残存長である。

(3) 森遺跡出土の輪羽口・鉄滓の考察

(I) はじめに

これまでの古墳時代の鉄に対する研究は、①森浩一氏の鉄鎌からの研究、②都出比呂志氏・野上丈助氏の鉄製品からの研究、③大澤正巳氏の鉄滓や鉄鎌の成分分析からの研究の3つに大きく分けることができる。これらの研究は、主に鉄製品需要者側の研究が主たる位置を占めている。今回は、大阪府下で近年出土量が増加している、古墳時代の輪羽口・鉄滓を森遺跡も含めて集成し、鉄製品供給者側と中（後）期古墳の関連を中心に述べる。

(II) 森遺跡出土の輪羽口・鉄滓

北河内においては、初めて古墳時代の鍛冶遺跡を確認した森遺跡は、古墳時代中・後期の車塚古墳群に隣接する形で立地する。今回の調査では、鍛冶関連の遺構は確認されず、5世紀の中頃から6世紀初頭の土器群に混って、輪羽口・鉄滓が出土した。また、6世紀後半に築造された清水谷古墳の横穴式石室内からも鉄滓が確認されているので、合わせてそれぞれの出土状況をまとめた（表2）。

出 土 場 所	鉄 淬 (g)	輪 羽 口 (個)
A 地 区 溝 1	425	3
〃 溝 2	0	1
〃 溝 3	137	2
〃 溝 4	9	0
〃 溝 5	727	1
〃 包 含 層	1410	2
小 計	2708	8
B 地 区 井 戸 1	132	1
〃 溝 1	333	0
〃 溝 2	87	0
〃 包 含 層	55	0
小 計	607	1
88年 度 試 挖	200	0
合 計	3515	9
清 水 谷 古 墳	190	0

表2 森遺跡鍛冶関連遺物出土表

（III）大阪府下古墳時代における鍛冶遺跡

古墳時代における鍛冶遺跡を概観すると、大県・大県南遺跡は、他の遺跡に比べ、①鉄生産の期間が5世紀～8世紀と長期間に渡り、鍛冶関連の遺構・遺物が多量に出土する。②旧国郡単位である大県郡に、古墳時代前期に比べて、中期は古墳の数が激減し、中期中頃以降の古墳は皆無である。などが特徴としてあげられる。

これに対して、森遺跡を含め、大阪府下の他の遺跡では、①鉄生産の期間が短く、中期全般と後期初頭の範囲におさまり、特に5世紀中頃から6世紀初頭に鉄生産が大阪府下各地で活発に行なわれたと考えられる。各遺跡の鉄生産高は、大県・大県南遺跡に比べて少ない。②その遺跡が立地する旧郡単位に、鍛冶遺跡と同時期の古墳が付近に存在する。などが特徴である（図23・表3）。

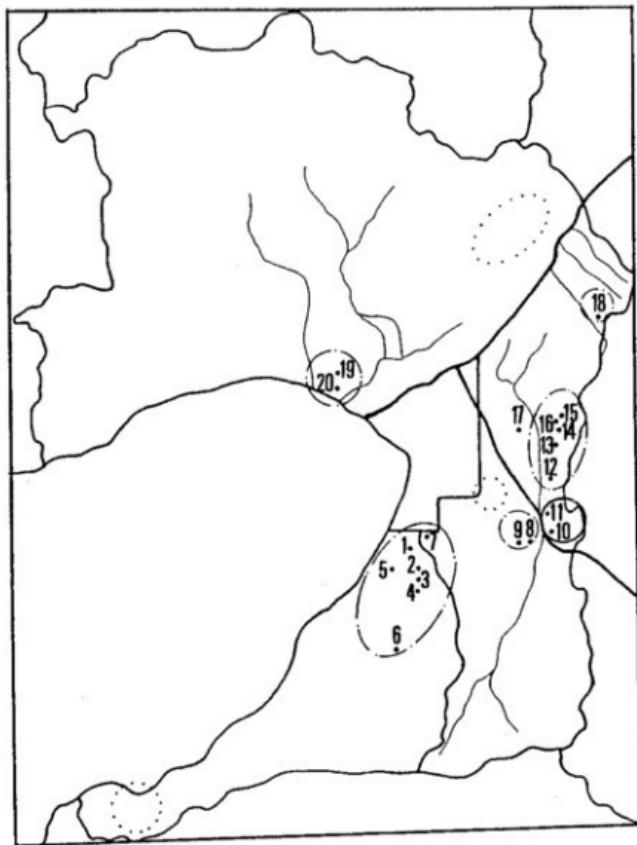


図23 大阪府下古墳時代における鍛冶遺跡分布図（番号は表3の番号と対応する）

○ 特別鍛冶遺跡群 ○ 一般鍛冶遺跡群

○ 未確認鍛冶遺跡群（これから発見されるであろう鍛冶遺跡）

※尚、今回の分布図作製にあたっては、桑野一幸氏・手本隆裕氏・米田敏幸氏・樋口吉文氏・花田勝広氏の教示を得た。

これまでに、鍛冶遺跡はその性格から2つに区別した。この遺跡間での格差は、農民層にまで鉄製品が普及していないことを前提にすれば、大県・大県南遺跡は、大阪府下各地（今回は一応限定する）の豪族クラスに古墳の副葬品や古墳築造・農業・土木作業用の鉄製のクワ・スキ類を供給する最大規模の鍛冶遺跡と考えられ、森遺跡も含めたその他の鍛冶遺跡では、大県・大県南遺跡より供給された鉄製のクワ・スキで古墳を築造しそれが、破損した際に修理を直接その遺跡で行うか、または直接クワ・スキを製作したと考えられる。

(IV) まとめ

森遺跡は、古墳時代における一般的な鍛冶遺跡と考えられ、車塚古墳群に属する西車塚古墳・東車塚南古墳・西車塚南古墳の築造に直接関与した鍛冶工人の存在が想定される。

- 註① 森浩一「古墳時代の鉄鍛について」（『古代学研究』21・22合併号）1959年
註② 都出比呂志「農具鉄器化の2つの画期」（『考古学研究』13巻3号）1967年
註③ 野上丈助「古墳時代における鉄および鉄器生産の諸問題」（『考古学研究』15巻2号）1969年
註④ 大澤正巳「古墳出土鉄滓からみた古代製鉄」（日本製鉄史論集）1983年
註⑤ 交野市教育委員会「東車塚古墳現地説明会資料」1988年
註⑥ 交野市教育委員会「清水谷古墳調査概要」1987年
註⑦ 原島礼二「日本古代国家成立期の農業労働形態」（『日本史研究』76号）1965年
註⑧ 石野博信・関川尚功『纏向』1976年 纏向・石塚古墳の周溝内より出土した木製のスキは、古墳造営に使用された可能性が高い。

表3 大阪府下古墳時代における鍛冶遺跡一覧表

鍛冶遺跡	時期	出土位置・出土鍛冶関連遺物	鉄津の化学分析	参考資料	関与したと思われる古墳
①今池遺跡	5C後	櫛羽口10個、鉄斧	無	今池遺跡1976 今池遺跡調査員・堺市教育委員会	百舌鳥古墳群
②東上野芝遺跡	5C中～6C中	SK-005出土 櫛羽口1個、鉄津55g	鍛錬鍛冶岸	堺市文化財調査報告第10集1982 堺市教育委員会	〃
③飛南北遺跡	5C後	W-G-2, W-E-1 炉跡1出土、櫛羽口鉄斧	〃	飛南遺跡現地説明会要旨1994 四ツ池遺跡調査会、堺市教育委員会 土師窯遺跡発掘調査報告書その1 1996 堺市教育委員会	〃
④土師遺跡	5C後	土塚4・土塚7出土 櫛羽口、鉄斧	〃	堺市文化財調査報告第6集1980 堺市教育委員会	〃
	5C前～6C中	櫛羽口、鉄斧	〃	土師遺跡発掘調査報告書その1 1976 堺市教育委員会	〃
⑤西ノ垂遺跡	5C初	第3包含層出土 櫛羽口1個、鉄津	無	堺市文化財調査報告第6集1984 堺市教育委員会	〃
	5C初～中	古墳時代中期河川出土 櫛羽口12個、鉄斧	〃	〃	〃
⑥太平寺遺跡	5C後～6C初	SDN2出土 櫛羽口14個、鉄津960g、磁石5点	〃	府道松原泉大津線間違遺跡発掘調査 報告書1984 大阪文化財センター	〃
	5C後～6C前	SKN7出土 〃 1個, 〃 307g	〃	〃	〃
	5C後～6C初	SKN6出土 〃 1個,	〃	〃	〃
	5C後～6C初	SBK1.2出土 〃 2個, 〃 316g	〃	〃	〃
詳細不明		南壁西脇部	〃	〃	〃
(5C後～6C初?)		灰白色細砂	〃	〃	〃
⑦大和川、今池遺跡	5C前	鉄斧	鍛錬鍛冶岸	大和川、今池遺跡III 1981 大和川、今池遺跡調査会	〃
⑧古市遺跡	5C後～6C初	包含層出土 櫛羽口1個	無	古市遺跡発掘調査報告書1979 羽曳野市教育委員会	古市古墳群
⑨古市大堀	5C中	溝内出土 櫛羽口1個	〃	古市遺跡群Ⅱ 1985 羽曳野市教育委員会	〃
⑩大堀島・高瀬跡83-4 次 83-5 次	6C～8C	包含層出土 鋸床	〃	柏原市埋蔵文化財発掘調査権1984 柏原市教育委員会	該当なし
〃	7C末～8C初	鍛冶炉包含層出土 櫛羽口2個、鉄津40g、銅鋤20g	〃	大堀島遺跡1985 柏原市教育委員会	〃
〃 83-6 次 A～E 地区	6C中～8C後	包含層出土 櫛羽口、鉄斧5380g	〃	大堀島大堀島遺跡1985 柏原市教育委員会	〃
〃 B地区 詳細不明	道路敷出土	鉄津70g	〃	〃	〃
〃	〃	土塚1出土 〃 75g	〃	〃	〃

歴治遺跡	時期	出土位置・出土歴治関連遺物	鉄滓の化学分析	参考資料	開かしたと思われる古墳	
C地区	6C後～7C初	土式2出土 鉄滓 5g	無	大歴南遺跡1985 柏原市教育委員会	該当なし	
D地区	6C後～7C初	溝9出土 ≈1610g	✓	✓	✓	
✓	7C～8C	溝1.2出土 ≈305g	✓	大歴南遺跡1986 柏原市教育委員会	✓	
85-1次	5C中	炉2出土 極羽口1個	✓	大県・大歴南遺跡1986 柏原市教育委員会	✓	
	5C後～6C初	炉3出土 ✓ ✓	✓	✓	✓	
	✓	炉4出土 ✓ ✓ 鉄滓29g	✓	✓	✓	
	6C中～後	炉1出土 ✓ ✓ ≈22g	✓	✓	✓	
①大歴遺跡	83-3次	包含層出土 極羽口、鉄滓 15070g	✓	柏原市埋蔵文化財発掘調査概要1984 柏原市教育委員会	✓	
	82-9次	6C後	歴治1-5出土 極羽口3個以上、鉄滓	✓	大県・大歴南遺跡1984 柏原市教育委員会	✓
		瓦器 1-6出土 ✓ ✓	✓	✓	✓	
		石数出土 ✓ 1個以上 ✓	✓	✓	✓	
82-9次	6C後	溝2出土 ✓ 17個 ✓	✓	✓	✓	
		土盛1出土 ✓ 1個以上 ✓	✓	✓	✓	
83-2次	6C中～後	包含層出土 磨石	✓ 30個以上 ≈37100g、	✓	✓	
B地区	83-2次	6C～7C	包含層出土 磨石	✓ 3個以上 ≈約8000g、	✓	
A地区	5C末～6C末	溝1出土 ✓ ✓	✓ 計	柏原市所在遺跡名鑑調査報告書1984 柏原市教育委員会	✓	
	6C～8C	溝2出土 ✓ 3個以上 ≈1760g	✓	✓	✓	
84-1次	5C中～7C初期	包含層出土 コンテナ箱5箱、#15 430g、磨石38個	✓	大県・大歴南遺跡1985 柏原市教育委員会	✓	
②都川遺跡	5C中～6C中	包含層 極羽口2個	✓	八尾市教育委員会木田氏謹教授による	都川東車塚古墳 都川西車塚古墳	
③櫛手遺跡	5C末	溝出土 極羽口10数点 鉄滓	✓	東大阪市教育委員会木本氏謹表示による。	瓢箪山古墳 えの木塚古墳	
④鬼塚遺跡	5C末～6C初	極羽口数個	✓	✓	出雲井古墳群	
⑤神並遺跡	5C中～6C初	58-1区落ち込み1出土 極羽口4個、鉄滓61g	✓	神並、西ノ辻、鬼塚遺跡発掘調査 概要I 1984 大阪府教育委員会	芝山古墳、坊主山古墳 戎山古墳、草上山古墳	

表3 大阪府下古墳時代における鍛冶遺跡一覧表

鍛冶遺跡	時 期	出土位置・出土鍛冶関連遺物	鉄導の 化学分析	参 考 資 料	関与したと思われる 古墳
羽ノ辻遺跡	5C末	鰐羽口数個	無	大阪市教育委員会牛本氏教小による	芝山古墳、猪主山古墳 戎山古墳、草上山古墳
日暮廬寺	5C末~6C初	鰐羽口数個	〃	〃	該当なし
森遺跡	5C中~6C初	A地区 ミ1.1.3.5鰐羽口、鉄岸 表2参考 B地区 井戸1、割1.2 A・B両地区包含層	〃		西牟婁古墳 東牟婁古墳 西牟婁南古墳
若王寺遺跡	古墳時代中・後期	詳細不明 鰐羽口、鉄岸	〃	尼崎市史第11巻 尼崎市役所	伊古太古墳
下坂部遺跡	〃	〃	〃	〃	〃

第5章 まとめ

今回の調査で判明した事項を略記してまとめにかえる。

森遺跡A・B両調査区から検出した遺構及び遺物から推察すると、今回の調査では明確な建物跡は確認できなかったが、同調査区付近には、弥生時代終末期から古墳時代後期までの集落が存在していたと推定される。しかし、この地区に限ってみた場合、続く奈良・平安時代の遺物は、全くと言っていいほど出土しない。

その後、遺構面は、耕作による削平を受けている。削平の時期については、出土したのが青磁碗の破片のみで室町時代頃までとしか推定できなかったが、A調査区から100m程南へ登った地点の調査において耕作面の最下層部より瓦器片を出土していることから推測して、同調査地も鎌倉時代までは耕作地となっていたと推測される。

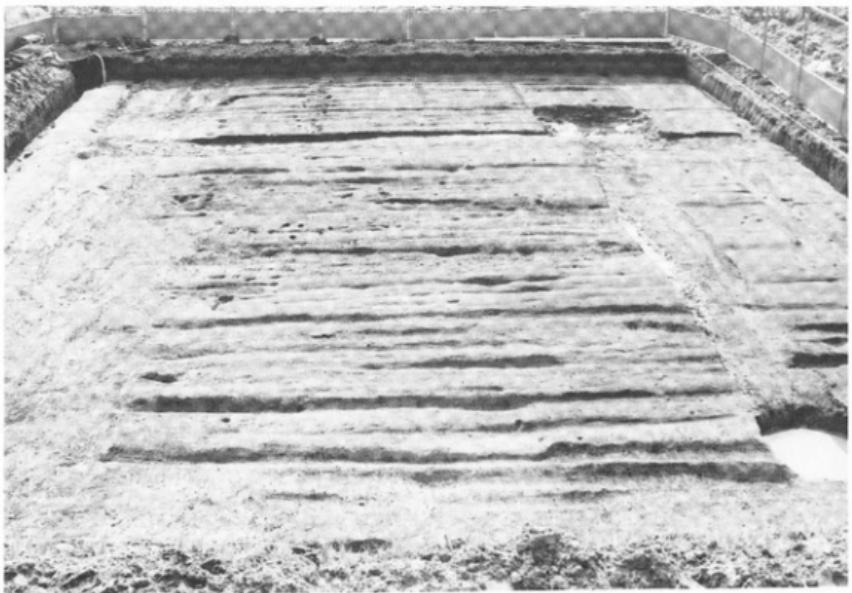
また、B調査区において、現在は同じ耕作面の下層部に、部分的に時期の異なる耕作面を検出したが、層序から判断して、自然災害による耕作地の改造とは考えられず、時期は不明ではあるが、中世から近世に至るまでの間に、この区域の耕作地には大規模な改造が加えられたことが推定できる。

最後に、森遺跡の性格を前述の調査結果を踏まえて述べると(1)森遺跡の出土遺物については古墳時代、特に森古墳群と車塚古墳群が築造される時期のものが最も数多く出土する。(2)遺物の出土範囲が、明治時代の森地区の集落範囲よりも広い範囲にわたっている。(3)耕作層の下層部分から古墳時代以降の遺構及び遺物を検出していない。以上の理由から、森遺跡は古墳築造に関連した専門的な集団が居住していた集落と考えられ、古墳が築造されなくなると集落に住む大部分の人々も、他の地域に移り住んでいったと推測される。

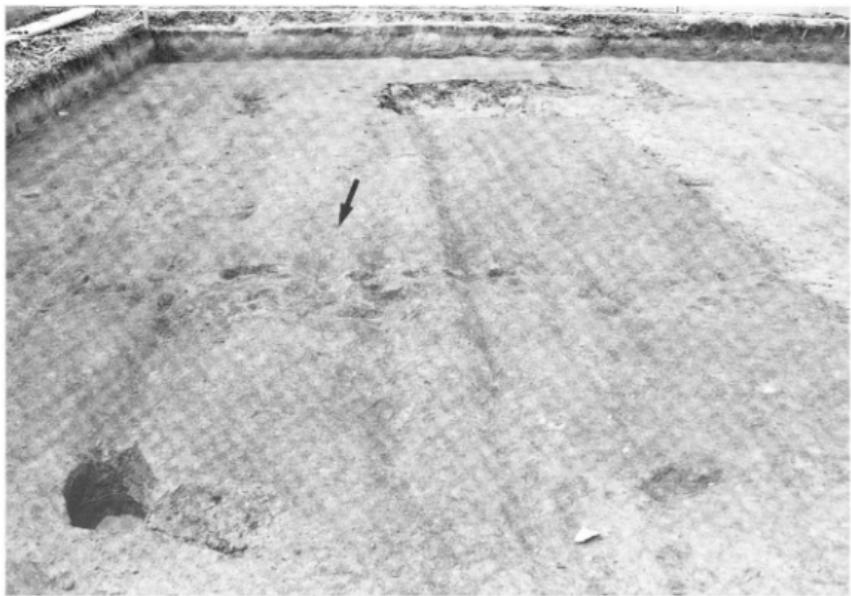
図版



調査区全景



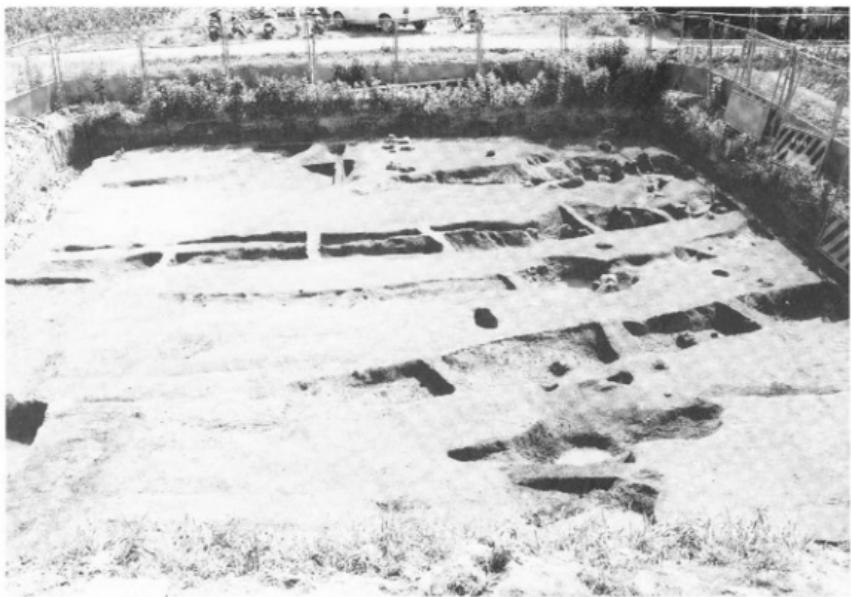
A調査区上層遺構(旧耕作面)



A調査区上層遺構 ピット群(人跡?)



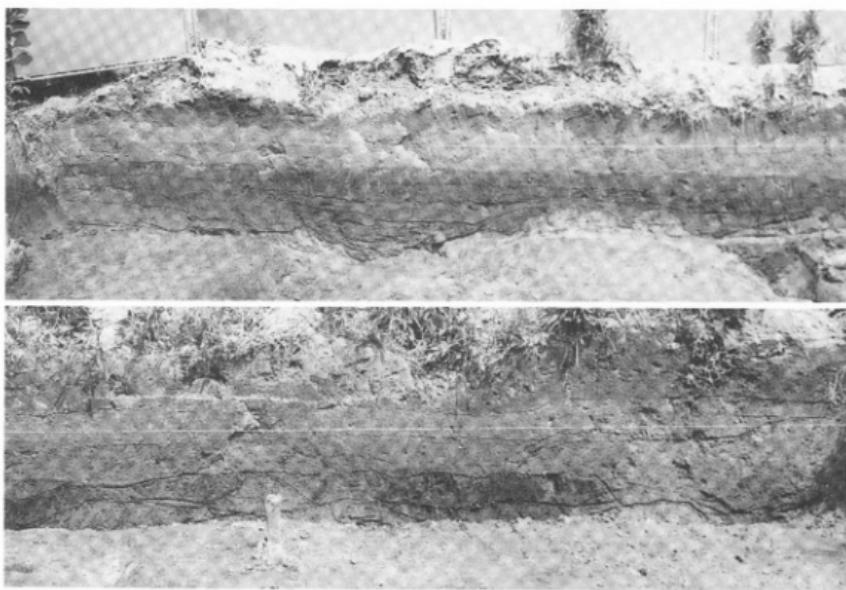
A調査区下層遺構 (1)



A調査区下層遺構 (2)



A調査区下層遺構 (3)



A調査区北側断面(上)西側(下)東側



A調査区 土塙 5



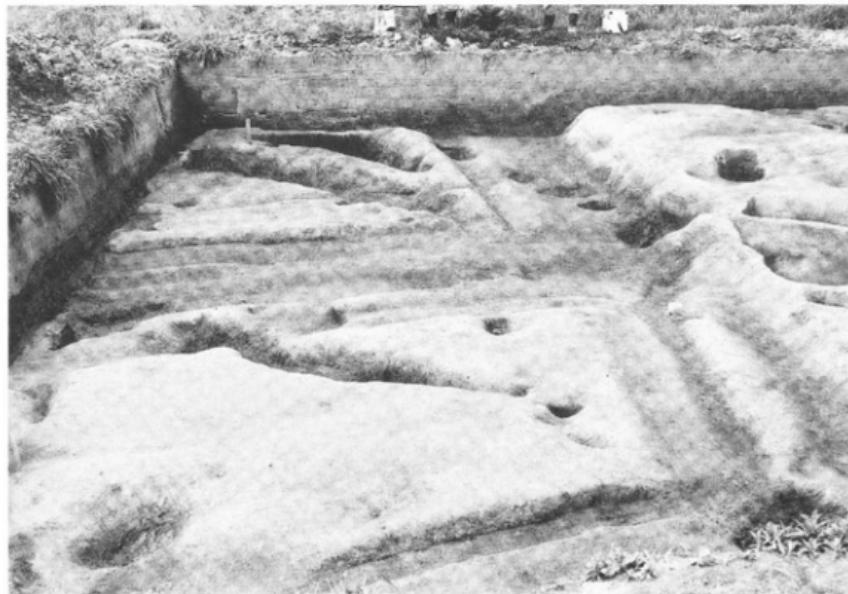
B調査区全景



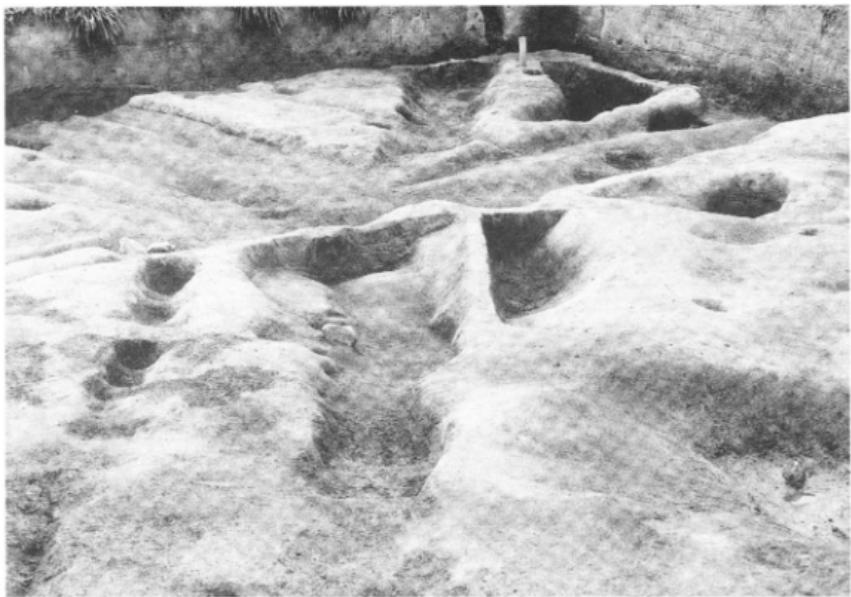
B調査区遺構 (1)



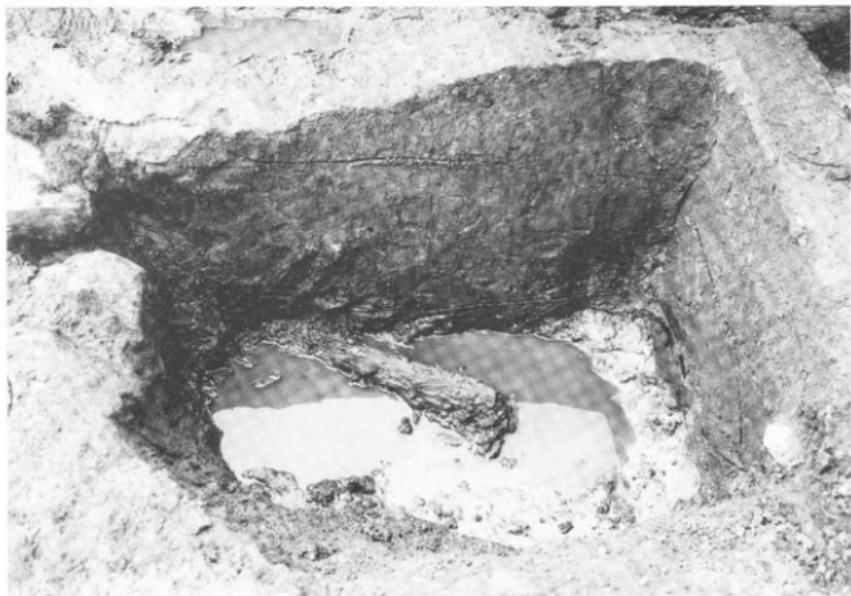
B調査区遺構 (2)



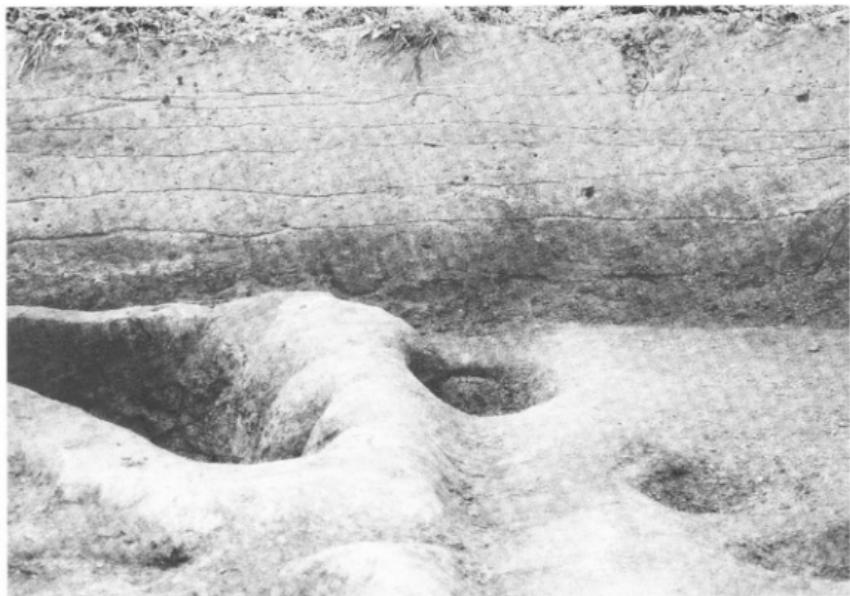
B調査区遺構 (3)



B調査区 溝2

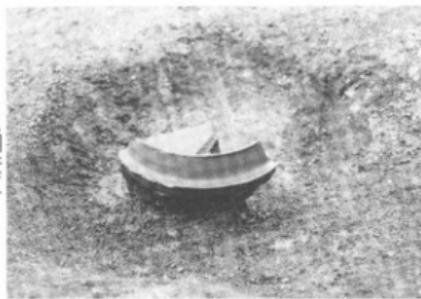


B調査区 井戸1

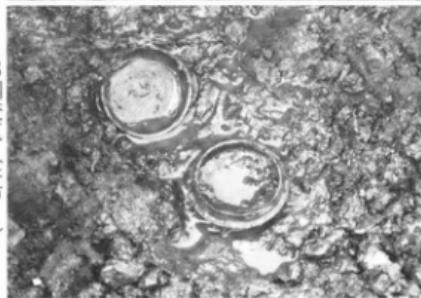


B調査区北側断面

A調査区



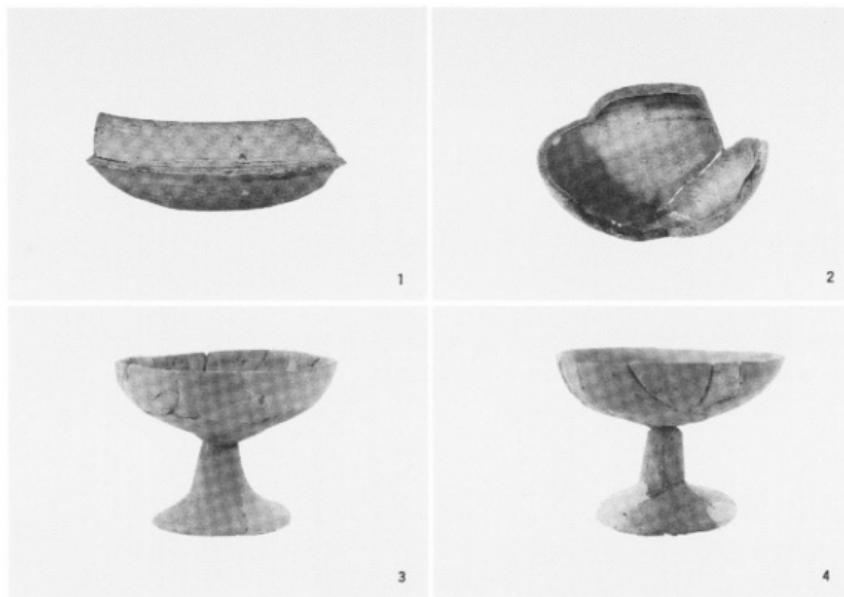
B調査区
(井戸1)



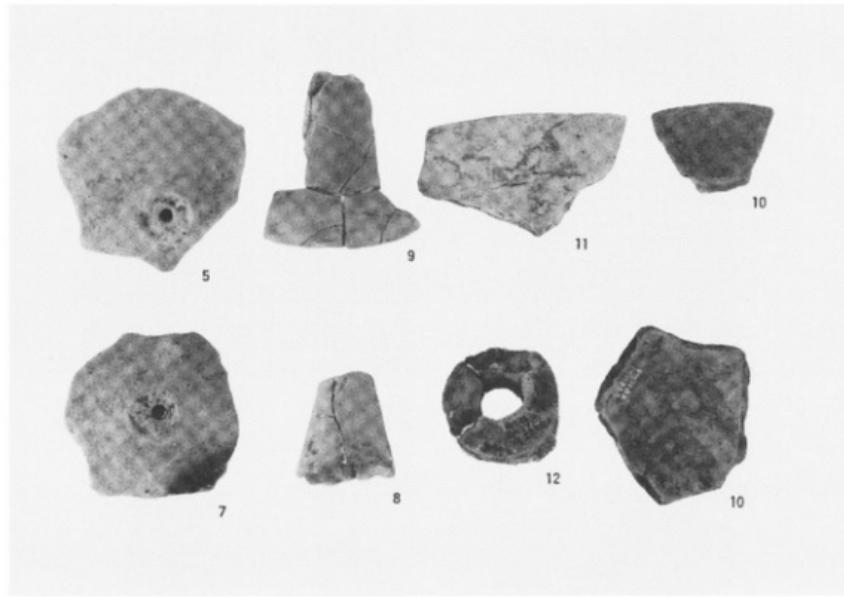
遺物出土状況



(A調査区試掘時)



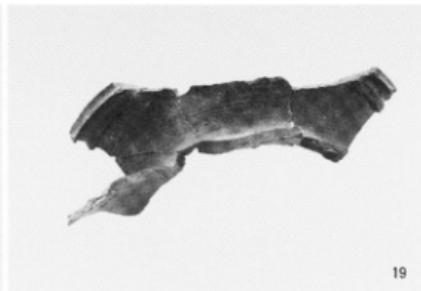
A調査区溝1出土遺物



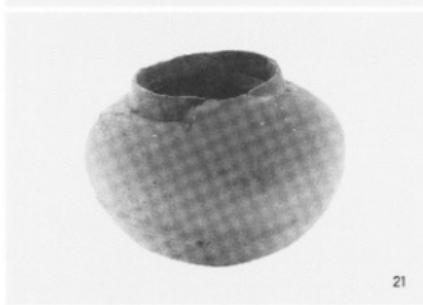
A調査区溝1出土遺物



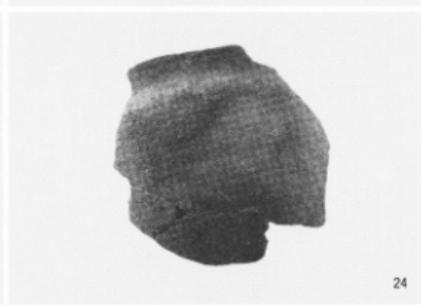
17



19

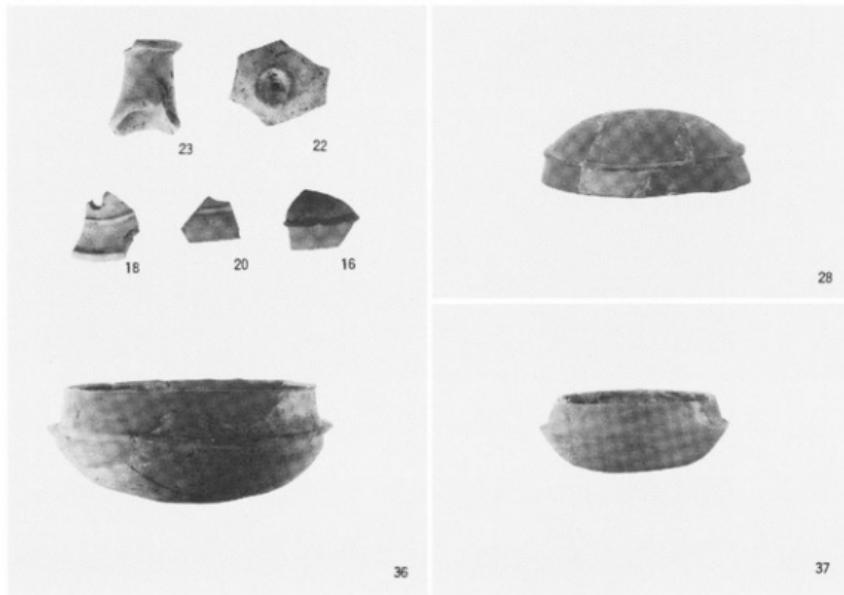


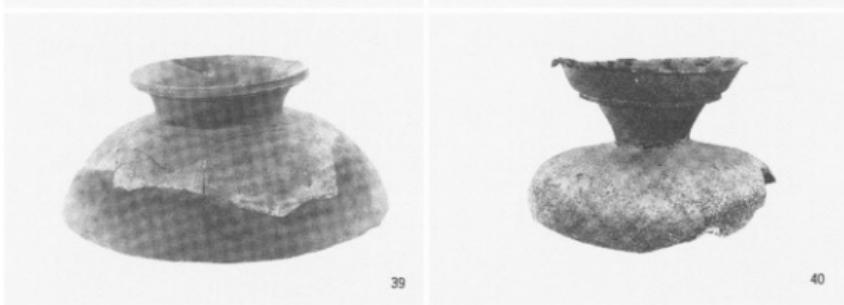
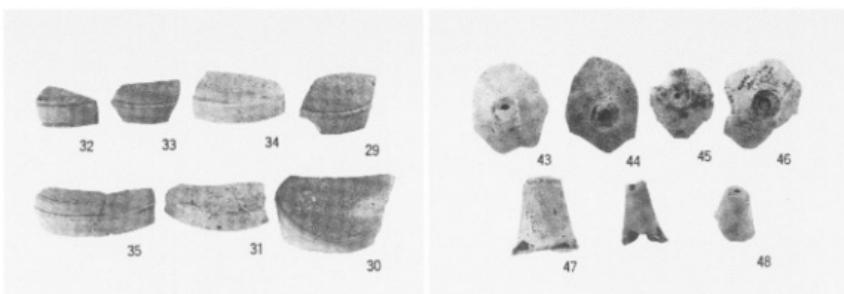
21



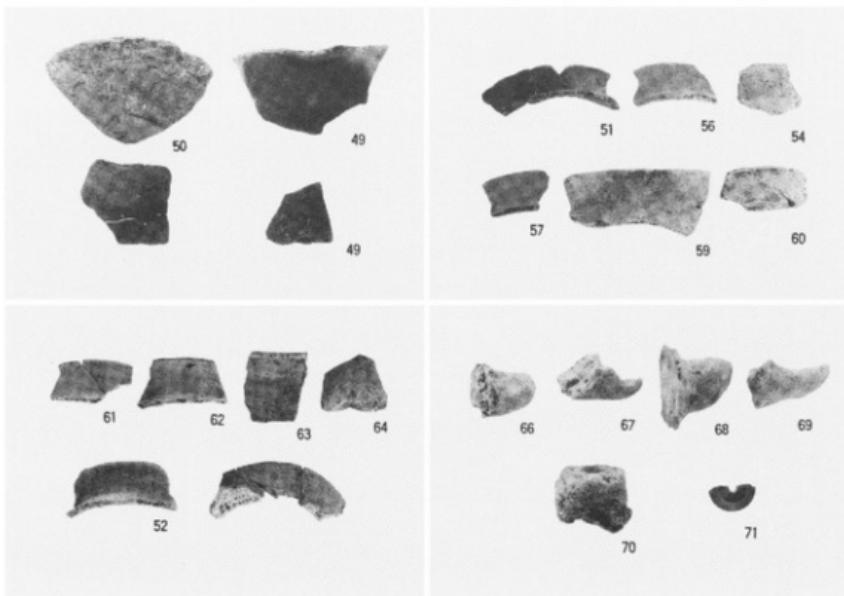
24

A調査区溝2(土塙5)出土遺物

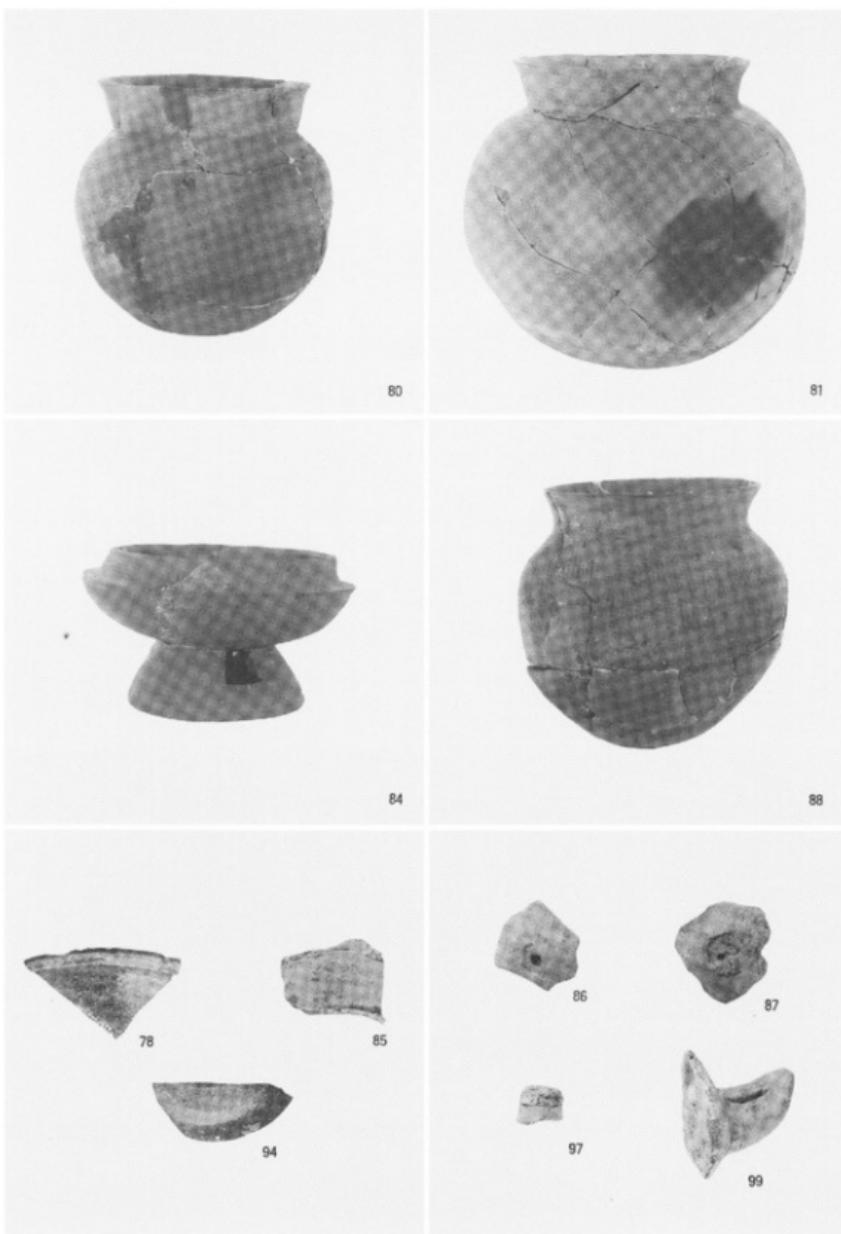




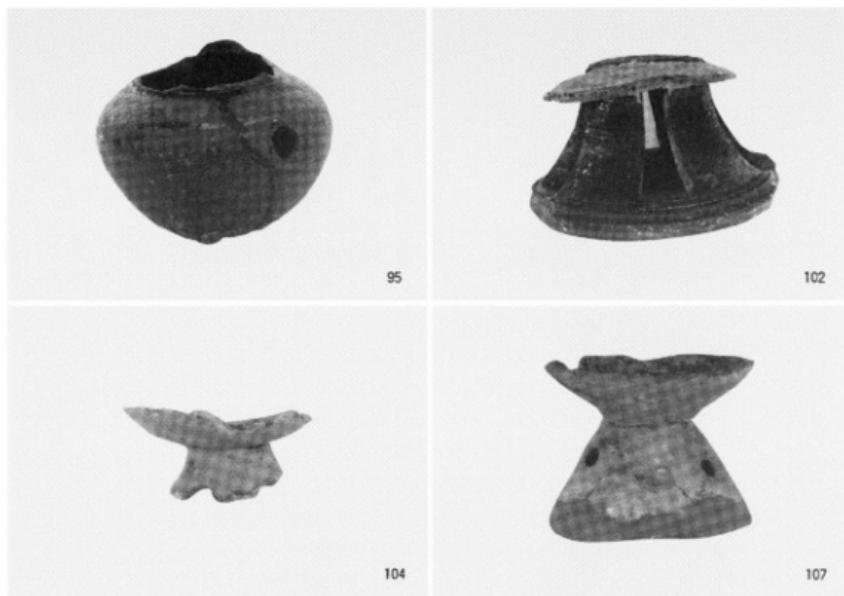
A調査区溝3出土遺物



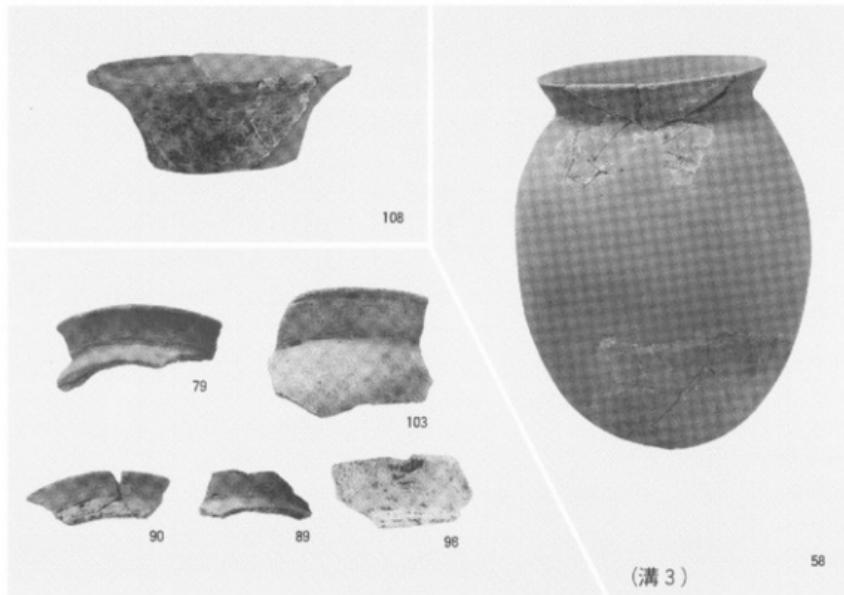
A調査区溝3出土遺物



A調査区溝5出土遺物

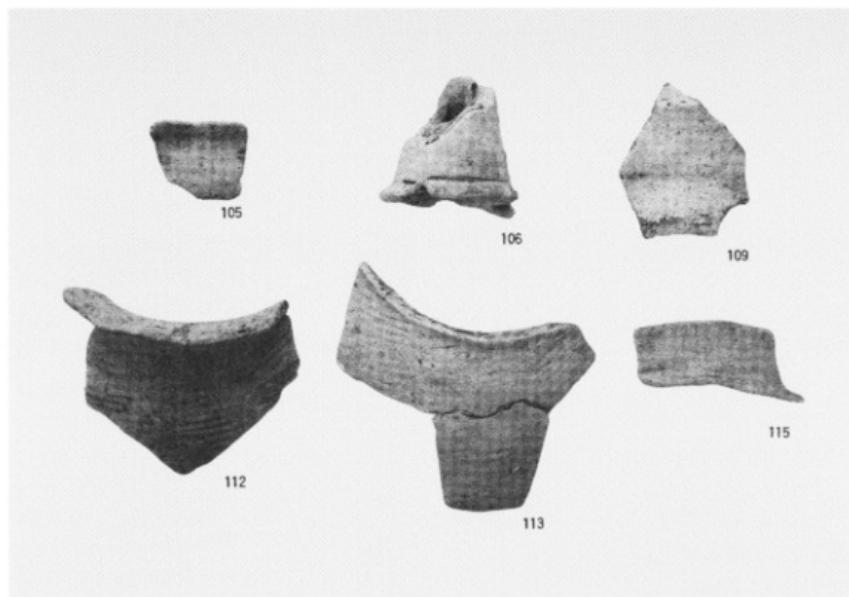


A調査区溝5・6出土遺物

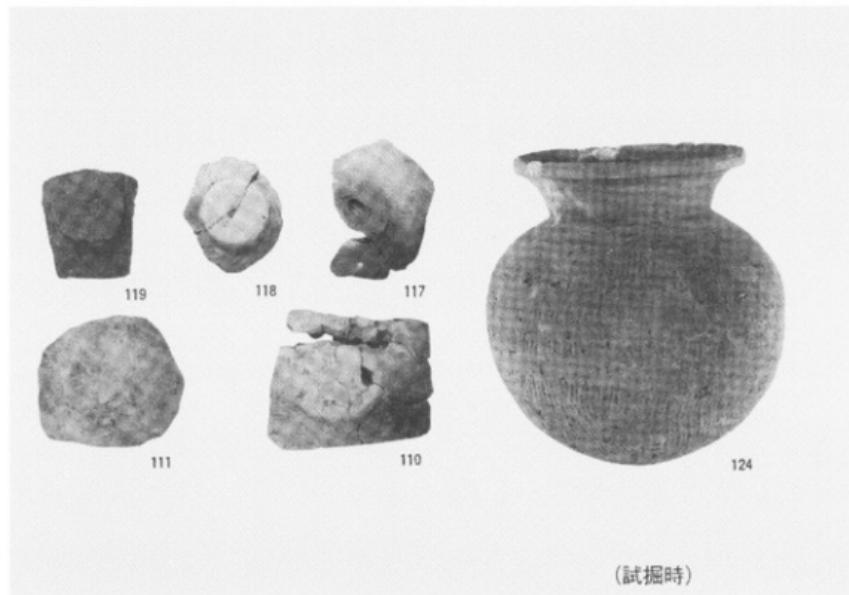


A調査区溝5・6出土遺物

(溝3)

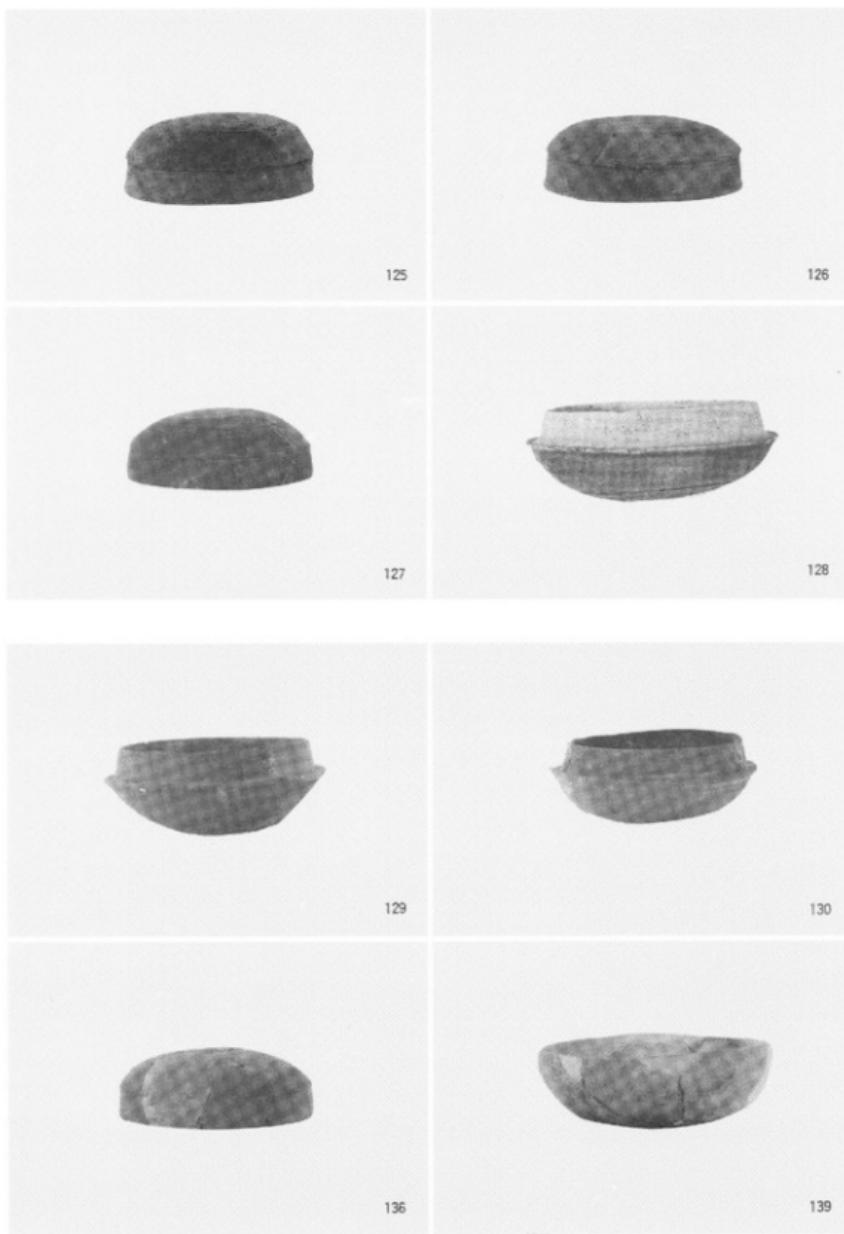


A調査区溝 6 出土遺物

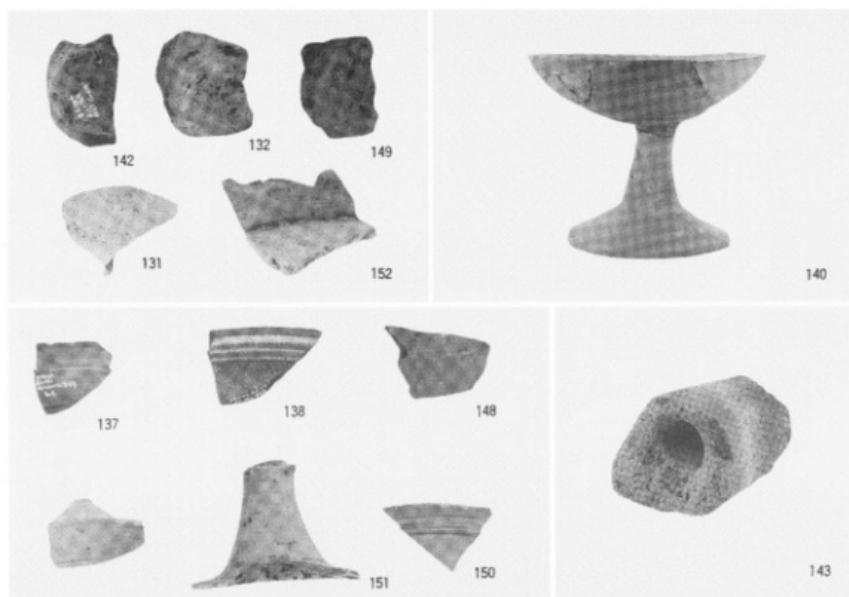


(試掘時)

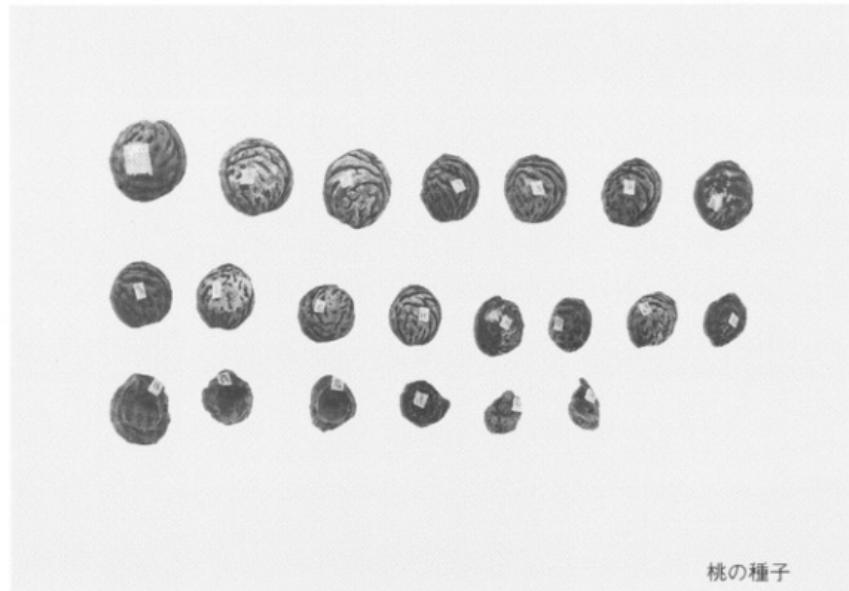
A調査区溝 6 出土遺物



B調査区出土遺物



B調査区出土遺物



桃の種子

B調査区出土遺物

